

第2期はちおうじ学園都市ビジョン アンケート集計結果

令和6年（2024年）8月

八王子市

目 次

1	調査の概要	1
	(1) 調査の目的	1
	(2) 調査の対象	1
	(3) 調査の方法	1
	(4) 調査期間	1
	(5) 調査票の配付・回収状況	1
2	大学等調査結果	2
	(1) 今後の地域連携の意向について	2
	(2) 貴学と（八王子市及びその周辺自治体の市域内にある）企業との関係性について 理想とする姿	11
	(3) 貴学の学生生活動（授業外の時間に学生が自発的に行う活動を指す）に対する意向 について	11
	(4) 学生の就職活動に対する支援として、今後、特に力を入れたい取組み	12
	(5) 学生の（授業外の時間を含む）日常生活への支援について	13
	(6) 留学生支援について	14
	(7) 生涯学習への取組みについて	16
3	大学生調査結果	23
	(1) 回答者の属性	23
	(2) 八王子地域の人材や資源を活用した学びについて	26
	(3) ボランティア活動について	27
	(4) 日常生活について	29
	(5) 卒業後の定住意向について	31
4	小学校・中学校・高等学校調査結果	33
	【小学校】	33
	(1) 八王子地域の大学等との連携で推進したいこと	33
	(2) 八王子地域の大学等との連携を推進する上での課題	33
	【中学校】	34
	(1) 八王子地域の大学等との連携で推進したいこと	34
	(2) 八王子地域の大学等との連携を推進する上での課題	34

【高等学校】	35
(1) 八王子地域の大学等との連携で推進したいこと	35
(2) 八王子地域の大学等との連携を推進する上での課題	35
5 企業調査結果	36
(1) 回答企業の属性	36
(2) 人材育成（社員のスキルアップ）について	37
(3) 採用活動について	38
(4) 産学連携について	40

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、第2期はちおうじ学園都市ビジョンの策定に当たり、市内の大学等、大学生、小学校・中学校・高等学校、企業の実態やニーズを把握し、ビジョン策定に必要な基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査の対象

- ア 大学等（大学コンソーシアム八王子加盟校 25 校）
- イ 大学生（500 人程度を想定）
- ウ 小学校・中学校・高等学校（小学校 69 校、中学校 37 校、高等学校 19 校）
- エ 企業（100 社程度を想定）

(3) 調査の方法

- ア 大学等（メールで調査票のデータを配布・回収）
- イ 大学生（WEB 調査を用いて、メール及び市広報 SNS で配布、インターネットで回収）
- ウ 小学校・中学校・高等学校（メールで調査票のデータを配付・回収）
- エ 企業（WEB 調査を用いて、メールで配付、インターネットで回収）

(4) 調査期間

令和5年（2023年）5月1日～6月30日

(5) 調査票の配付・回収状況

- ア 大学等（配付数 24 票、回収数 23 票、回収率 95.8%）
※帝京大学短期大学の回答は帝京大学の回答に含めるため、配付数は 24 票とした。
- イ 大学生（配付数 一票、回収数 682 票、回収率 ー%）
- ウ 小学校（配付数 70 票、回収数 50 票、回収率 71.4%）
- 中学校（配付数 38 票、回収数 28 票、回収率 73.7%）
- 高等学校（配付数 19 票、回収数 13 票、回収率 68.4%）
- エ 企業（配付数 一票、回収数 98 票、回収率 ー%）

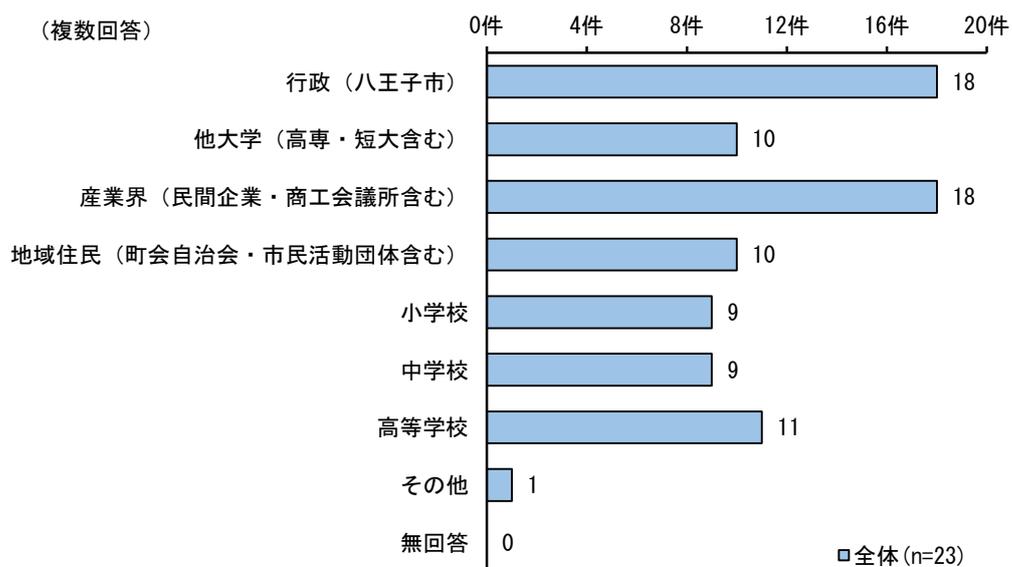
2 大学等調査結果

(1) 今後の地域連携※の意向について

※地域連携：ここでは「八王子市及びその周辺自治体の市域、及びその市域内にある組織・団体・個人」と貴学との連携を指します。

①今後、特に連携に力を入れたい主体

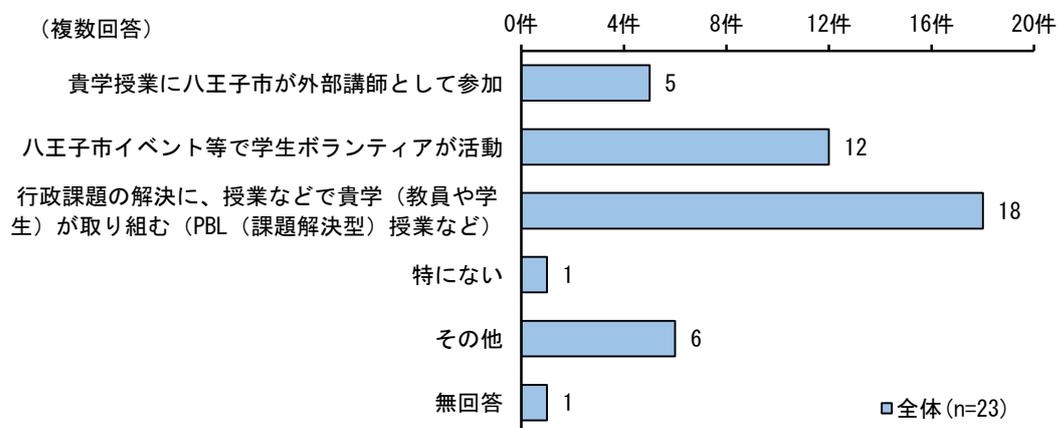
「行政（八王子市）」と「産業界（民間企業・商工会議所含む）」がそれぞれ 18 件で最も多く、次いで「高等学校」が 11 件となっています。



②行政（八王子市）と連携するとなった場合の意向

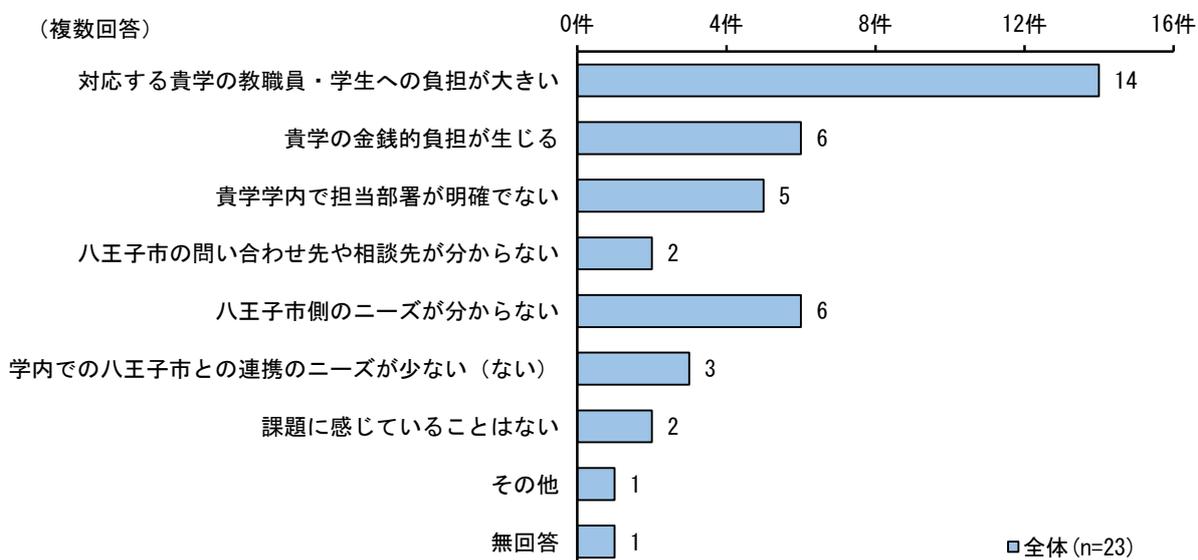
ア. 特に推進したいと考える取組み

「行政課題の解決に、授業などで貴学（教員や学生）が取り組む（PBL（課題解決型）授業など）」が18件で最も多く、次いで「八王子市イベント等で学生ボランティアが活動」が12件、「貴学授業に八王子市が外部講師として参加」が5件となっています。



イ. 課題となる事項

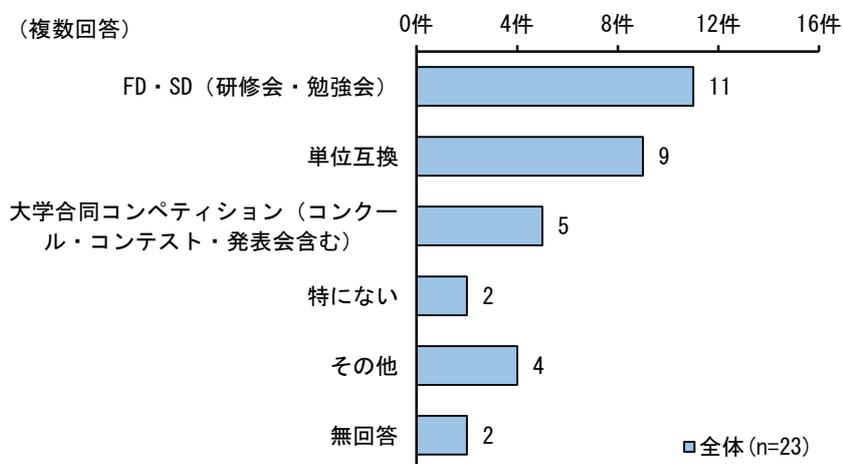
「対応する貴学の教職員・学生への負担が大きい」が14件で最も多く、次いで「貴学の金銭的負担が生じる」と「八王子市側のニーズが分からない」がそれぞれ6件となっています。



③他大学（高専や短大を含む）と連携するとなった場合の意向

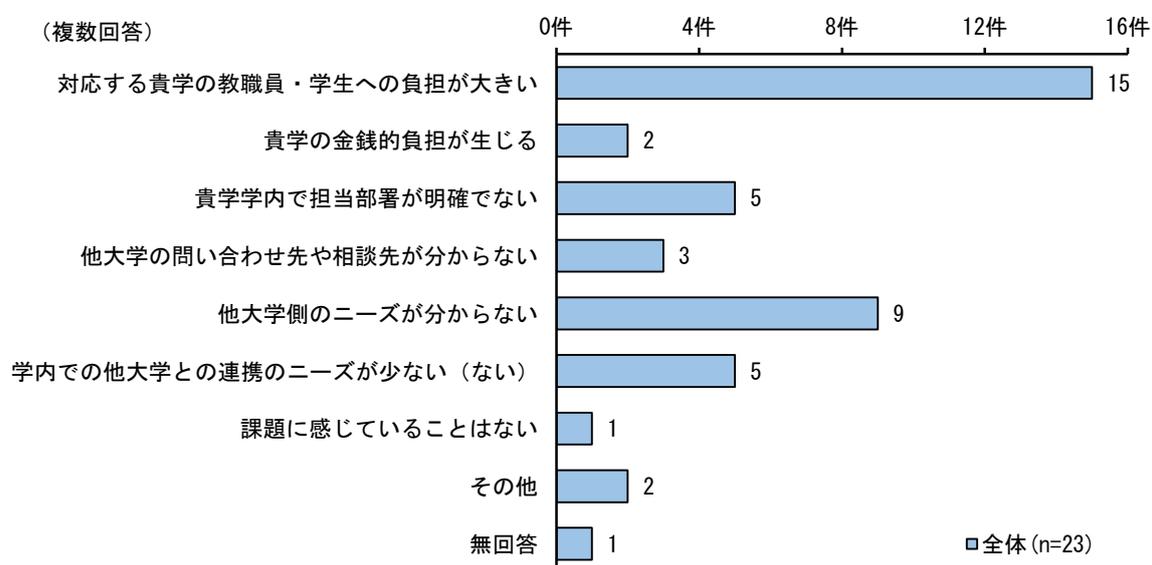
ア. 特に推進したいと考える取組み

「FD・SD（研修会・勉強会）」が11件で最も多く、次いで「単位互換」が9件、「大学合同コンペティション（コンクール・コンテスト・発表会含む）」が5件となっています。



イ. 課題となる事項

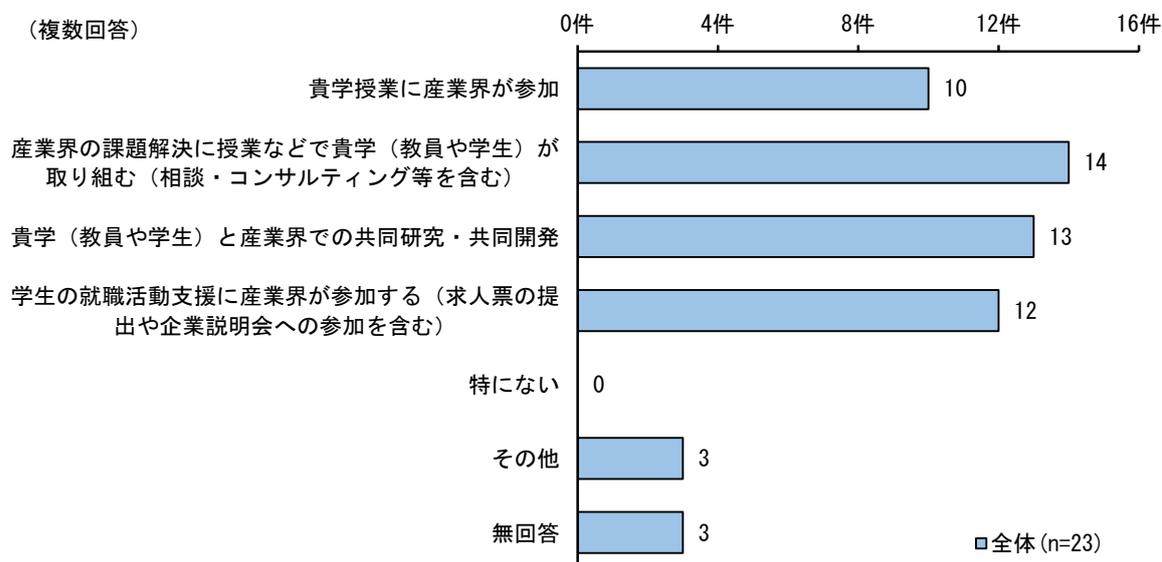
「対応する貴学の教職員・学生への負担が大きい」が15件で最も多く、次いで「他大学側のニーズが分からない」が9件、「貴学学内で担当部署が明確でない」と「学内での他大学との連携のニーズが少ない（ない）」がそれぞれ5件となっています。



④産業界（民間企業や商工会議所を含む）と連携するとなった場合の意向

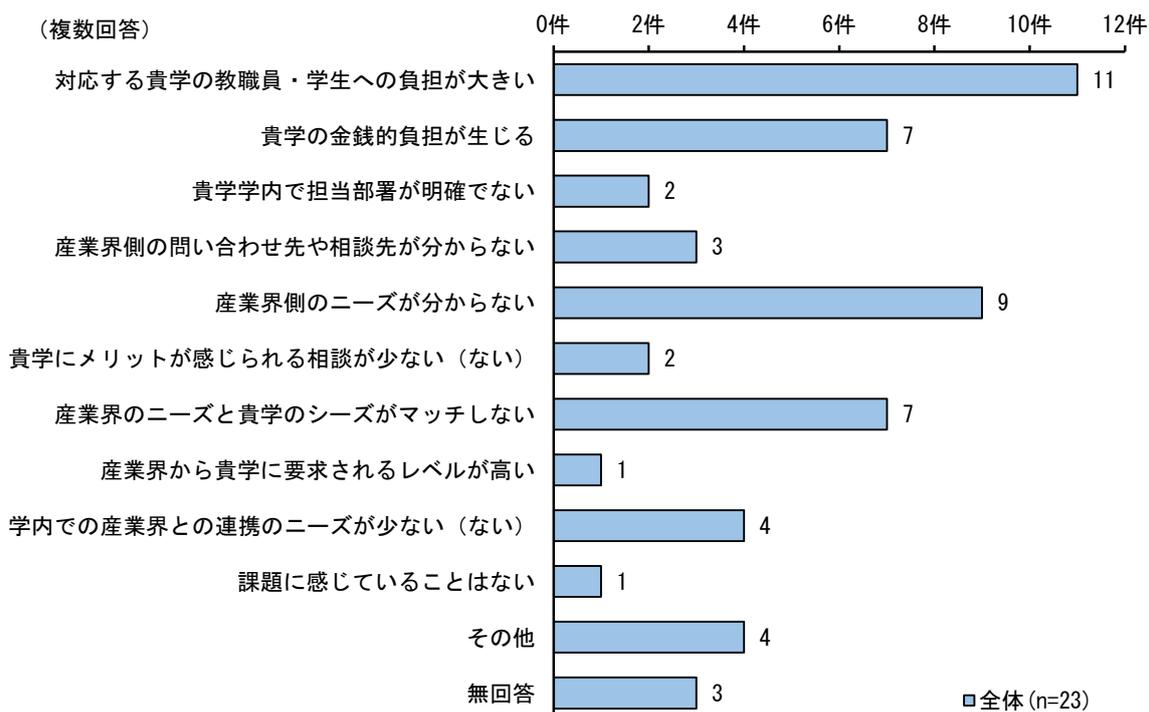
ア. 特に推進したいと考える取組み

「産業界の課題解決に授業などで貴学（教員や学生）が取り組む（相談・コンサルティング等を含む）」が14件で最も多く、次いで「貴学（教員や学生）と産業界での共同研究・共同開発」が13件、「学生の就職活動支援に産業界が参加する（求人票の提出や企業説明会への参加を含む）」が12件となっています。



イ. 課題となる事項

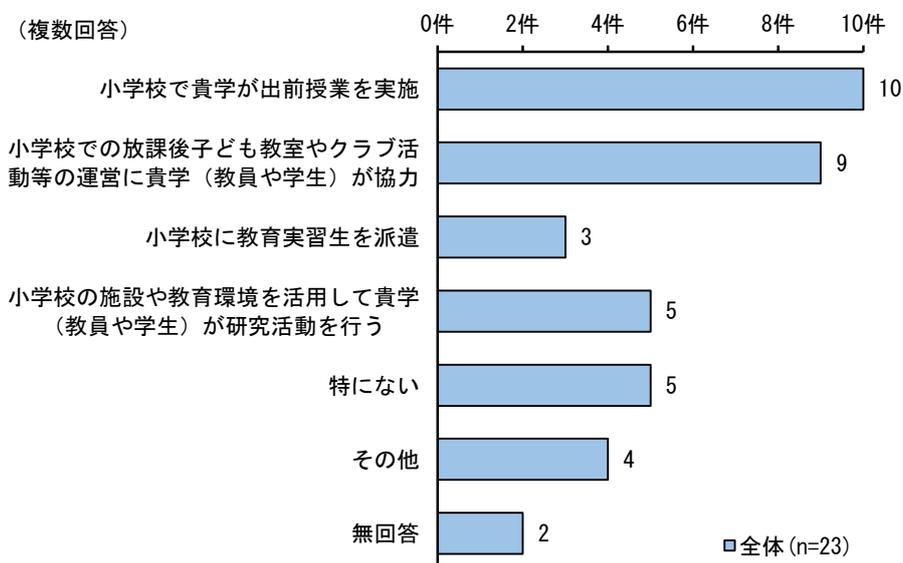
「対応する貴学の教職員・学生への負担が大きい」が11件で最も多く、次いで「産業界側のニーズが分からない」が9件、「貴学の金銭的負担が生じる」と「産業界のニーズと貴学のシーズがマッチしない」がそれぞれ7件となっています。



⑤小学校と連携するとなった場合の意向

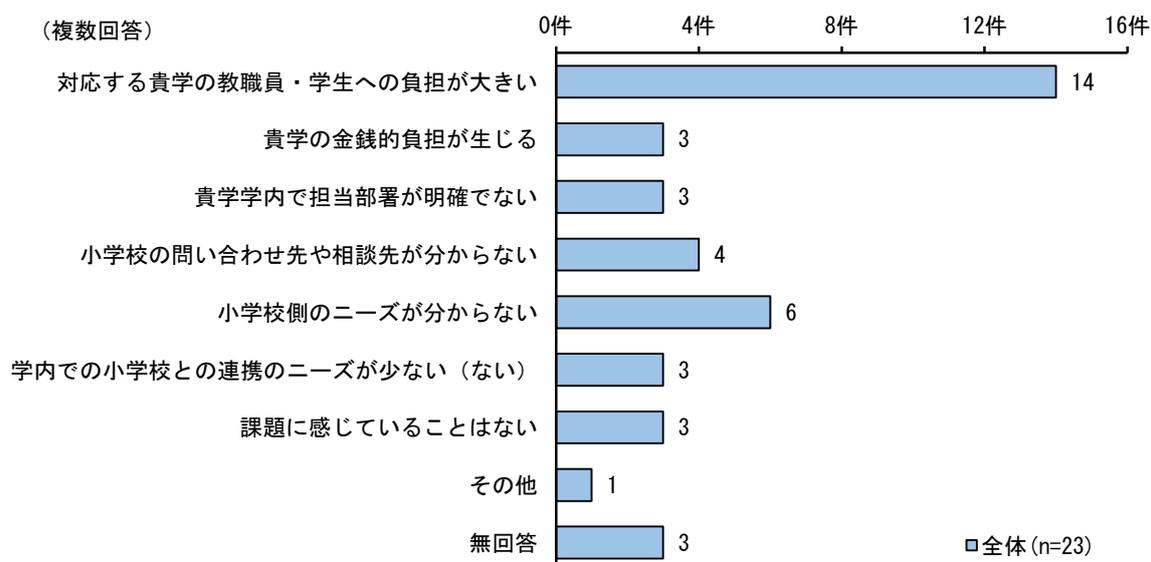
ア. 特に推進したいと考える取組み

「小学校で貴学が出前授業を実施」が10件で最も多く、次いで「小学校での放課後子ども教室やクラブ活動等の運営に貴学（教員や学生）が協力」が9件、「小学校の施設や教育環境を活用して貴学（教員や学生）が研究活動を行う」が5件となっています。



イ. 課題となる事項

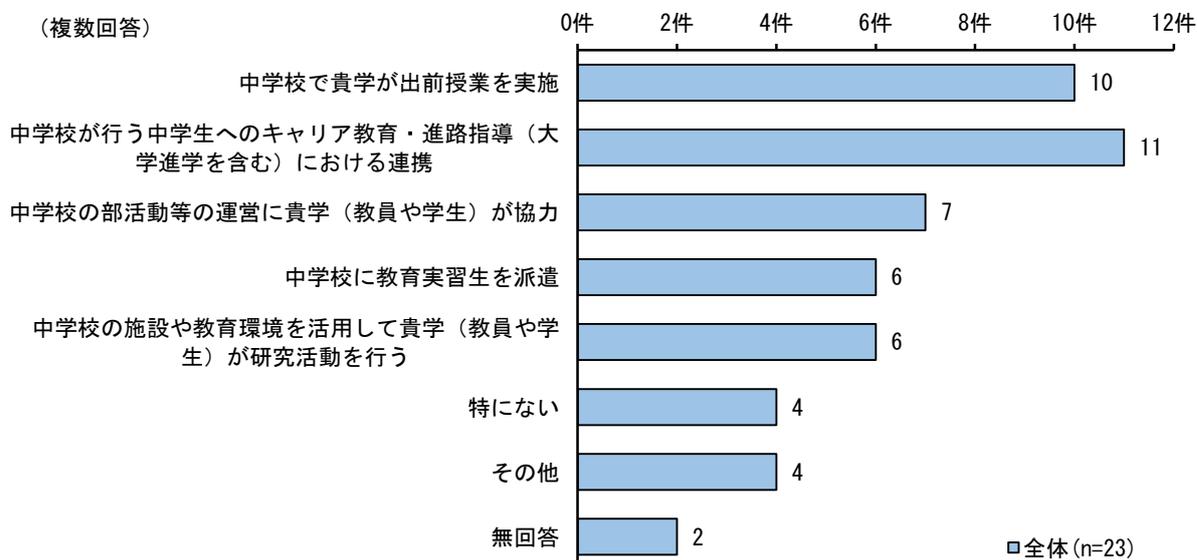
「対応する貴学の教職員・学生への負担が大きい」が14件で最も多く、次いで「小学校側のニーズが分からない」が6件、「小学校の問い合わせ先や相談先が分からない」が4件となっています。



⑥ 中学校と連携するとなった場合の意向

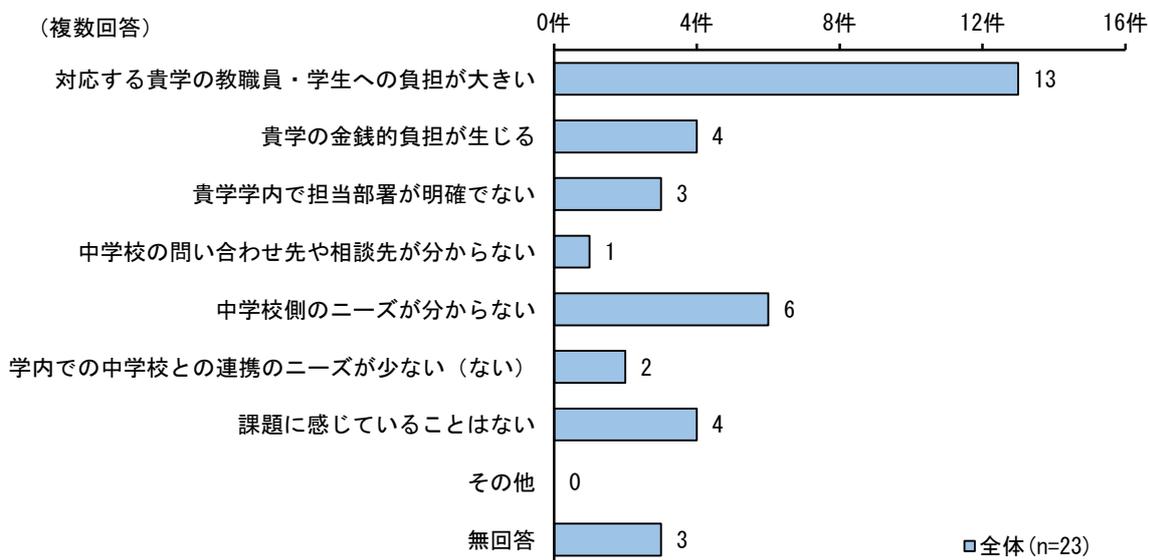
ア. 特に推進したいと考える取組み

「中学校が行う中学生へのキャリア教育・進路指導（大学進学を含む）における連携」が11件で最も多く、次いで「中学校で貴学が出前授業を実施」が10件、「中学校の部活動等の運営に貴学（教員や学生）が協力」が7件となっています。



イ. 課題となる事項

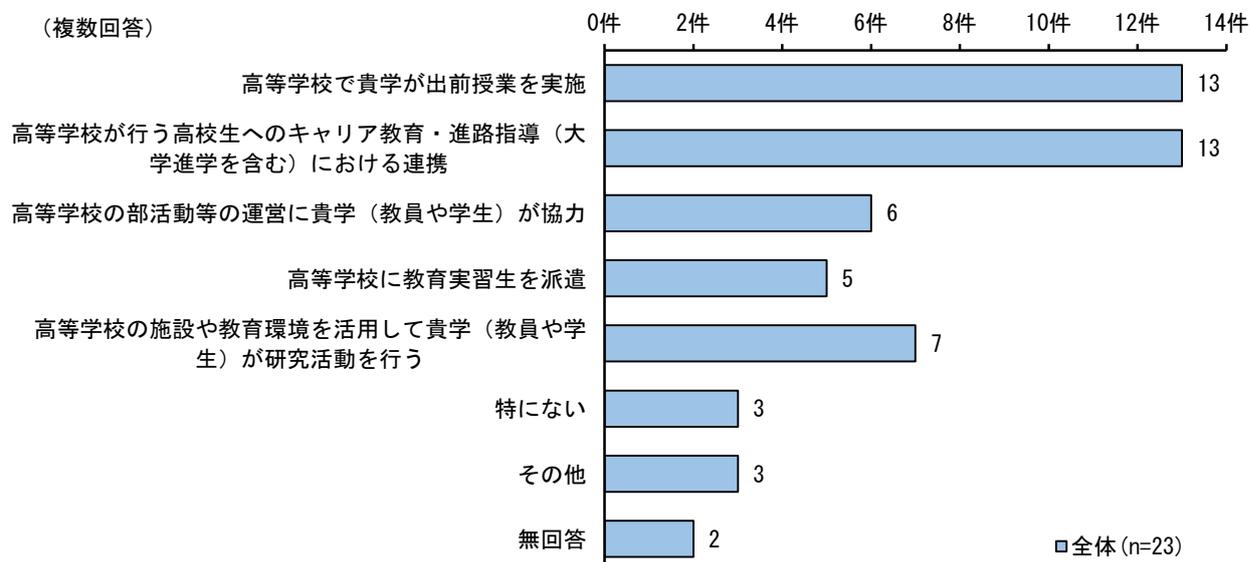
「対応する貴学の教職員・学生への負担が大きい」が13件で最も多く、次いで「中学校側のニーズが分からない」が6件、「貴学の金銭的負担が生じる」が4件となっています。



⑦高等学校と連携するとなった場合の意向

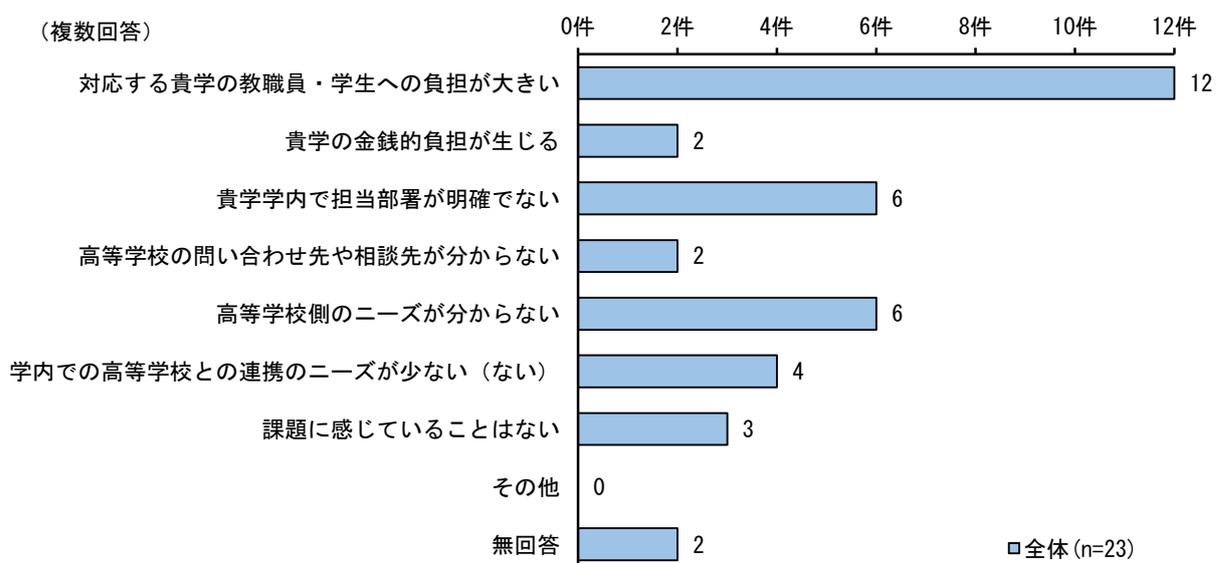
ア. 特に推進したいと考える取組み

「高等学校で貴学が出前授業を実施」と「高等学校が行う高校生へのキャリア教育・進路指導（大学進学を含む）における連携」がそれぞれ13件で最も多く、次いで「高等学校の施設や教育環境を活用して貴学（教員や学生）が研究活動を行う」が7件となっています。



イ. 課題となる事項

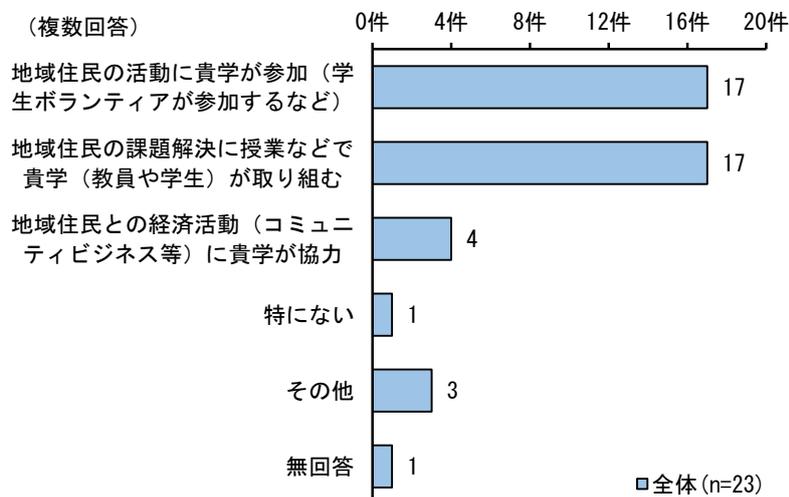
「対応する貴学の教職員・学生への負担が大きい」が12件で最も多く、次いで「貴学学内で担当部署が明確でない」と「高等学校側のニーズが分からない」がそれぞれ6件となっています。



⑧地域住民（町会自治会や市民活動団体を含む）と連携するとなった場合の意向

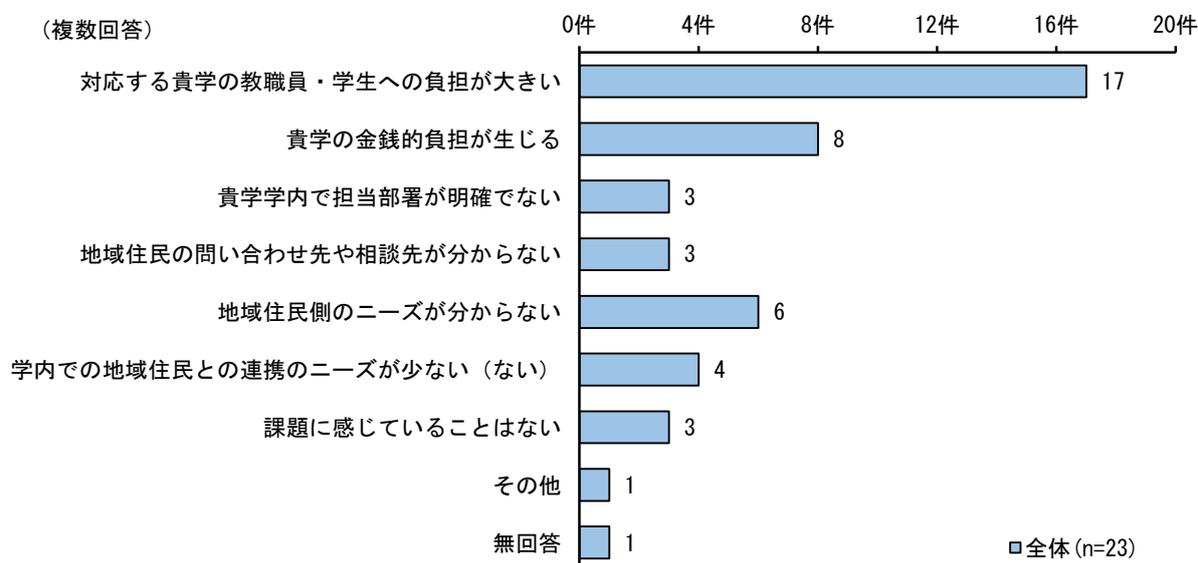
ア. 特に推進したいと考える取組み

「地域住民の活動に貴学が参加（学生ボランティアが参加するなど）」と「地域住民の課題解決に授業などで貴学（教員や学生）が取り組む」がそれぞれ17件で最も多く、次いで「地域住民との経済活動（コミュニティビジネス等）に貴学が協力」が4件となっています。



イ. 課題となる事項

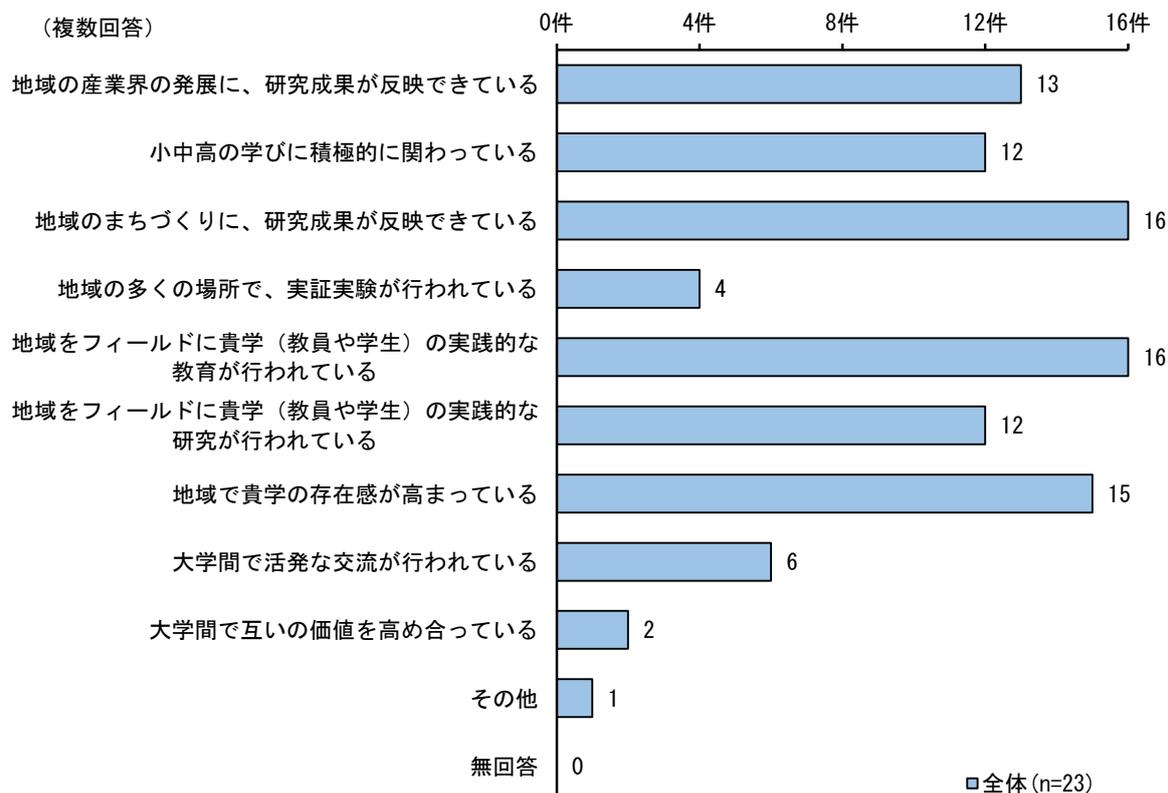
「対応する貴学の教職員・学生への負担が大きい」が17件で最も多く、次いで「貴学の金銭的負担が生じる」が8件、「地域住民側のニーズが分からない」が6件となっています。



⑨ 貴学と地域※の関係性について理想とする姿

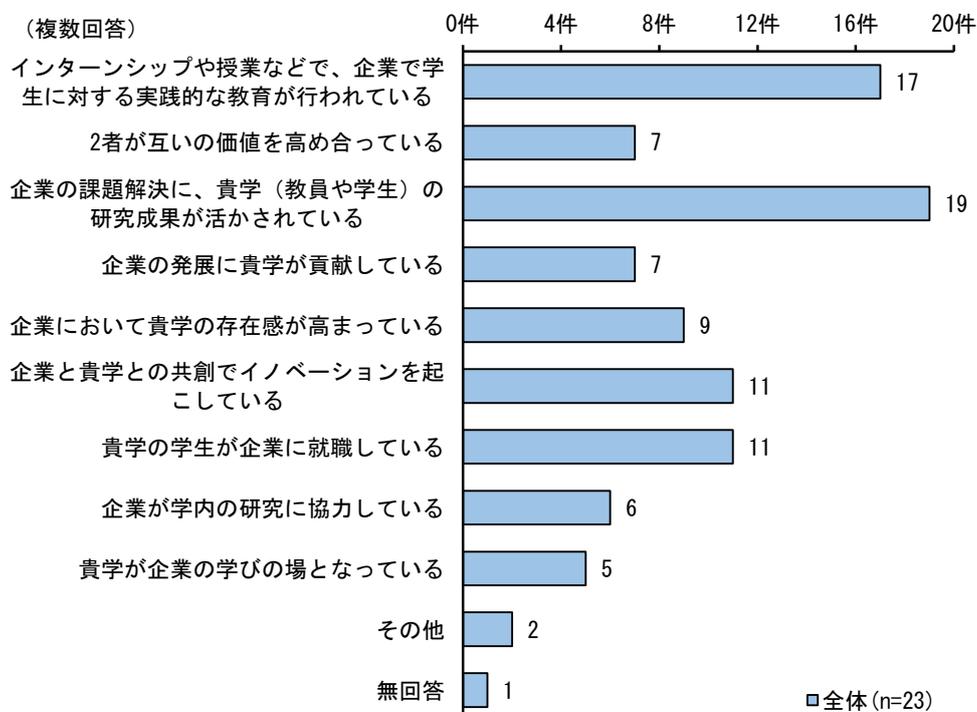
※地域：ここでは、「八王子市及びその周辺自治体の市域、及びその市域内にある組織・団体・個人（行政（八王子市）、他大学（高専や短大を含む）、産業界（民間企業や商工会議所を含む）、小学校、中学校、高等学校、地域住民（町会自治会や市民活動団体含む）」を指します。

「地域のまちづくりに、研究成果が反映できている」と「地域をフィールドに貴学（教員や学生）の実践的な教育が行われている」がそれぞれ 16 件で最も多く、次いで「地域で貴学の存在感が高まっている」が 15 件となっています。



(2) 貴学と（八王子市及びその周辺自治体の市域内にある）企業との関係性について理想とする姿

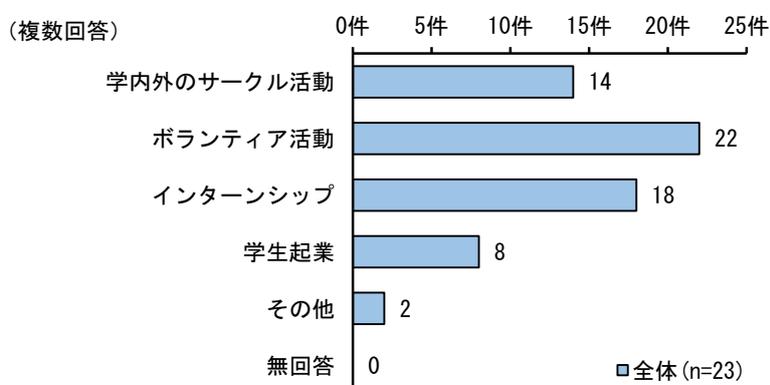
「企業の課題解決に、貴学（教員や学生）の研究成果が活かされている」が19件で最も多く、次いで「インターンシップや授業などで、企業で学生に対する実践的な教育が行われている」が17件、「企業と貴学との共創でイノベーションを起こしている」と「貴学の学生が企業に就職している」がそれぞれ11件となっています。



(3) 貴学の学生活動（授業外の時間に学生が自発的に行う活動を指す）に対する意向について

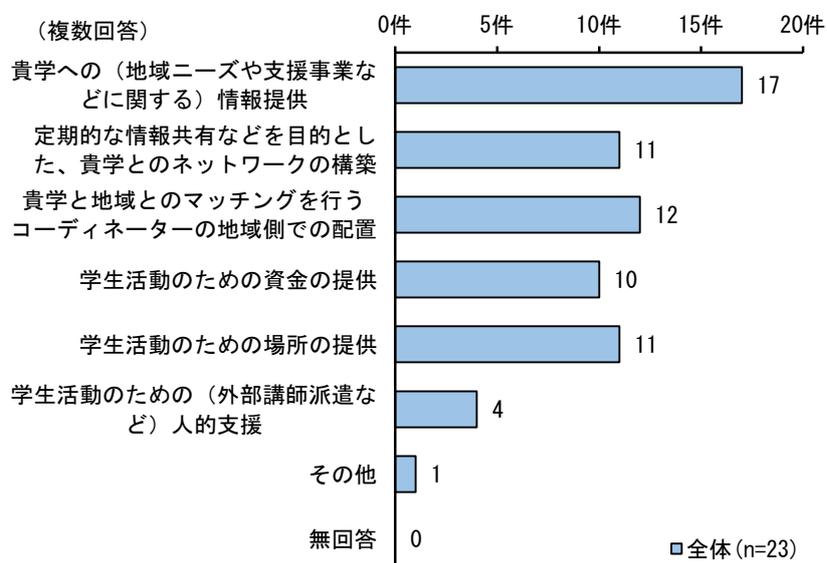
① 学生に体験させたいと考える学生活動

「ボランティア活動」が22件で最も多く、次いで「インターンシップ」が18件、「学内外のサークル活動」が14件となっています。



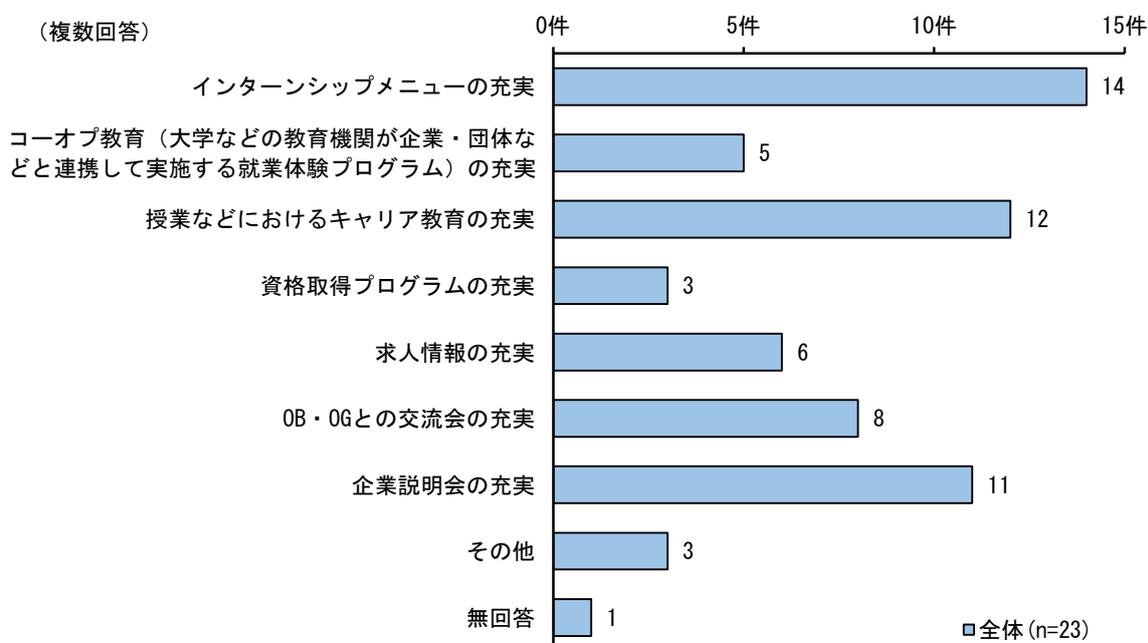
②学生活動を支援する上で地域（八王子市及びその周辺自治体の市域及びその市域内にある組織・団体・個人）に求める支援

「貴学への（地域ニーズや支援事業などに関する）情報提供」が17件で最も多く、次いで「貴学と地域とのマッチングを行うコーディネーターの地域側での配置」が12件、「定期的な情報共有などを目的とした、貴学とのネットワークの構築」と「学生活動のための場所の提供」が11件となっています。



(4) 学生の就職活動に対する支援として、今後、特に力を入れたい取組み

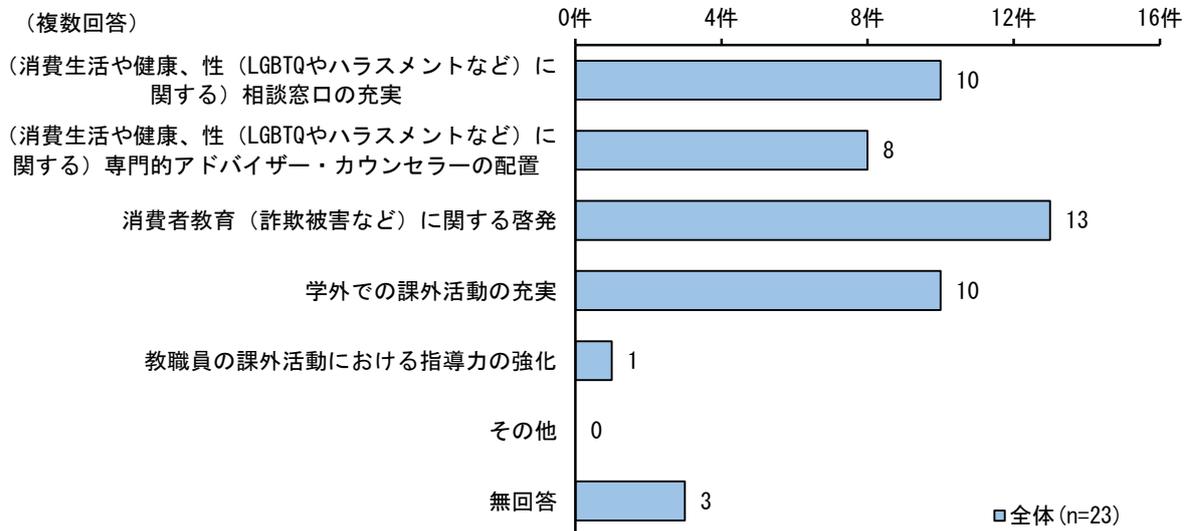
「インターンシップメニューの充実」が14件で最も多く、次いで「授業などにおけるキャリア教育の充実」が12件、「企業説明会の充実」が11件となっています。



(5) 学生の（授業外の時間を含む）日常生活への支援について

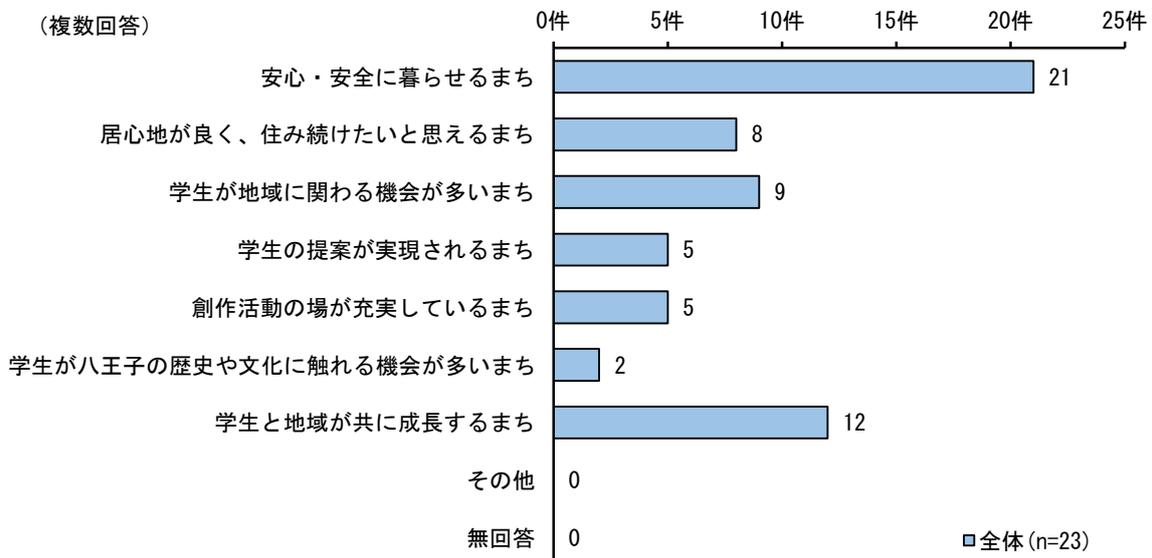
①今後、地域（主に行政（八王子市）を指す）とともに推進したい取組み

「消費者教育（詐欺被害など）に関する啓発」が13件で最も多く、次いで「（消費生活や健康、性（LGBTQやハラスメントなど）に関する）相談窓口の充実」と「学外での課外活動の充実」がそれぞれ10件となっています。



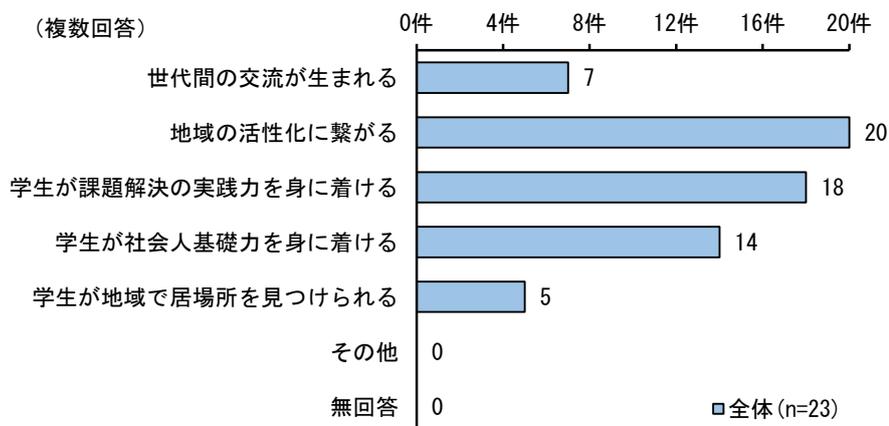
②学生にとって八王子地域がどのようなまちであることを期待するか

「安心・安全に暮らせるまち」が21件で最も多く、次いで「学生と地域が共に成長するまち」が12件、「学生が地域に関わる機会が多いまち」が9件となっています。



③学生が八王子地域で活動することで生じる良い効果として考えられるもの

「地域の活性化に繋がる」が20件で最も多く、次いで「学生が課題解決の実践力を身に着ける」が18件、「学生が社会人基礎力を身に着ける」が14件となっています。

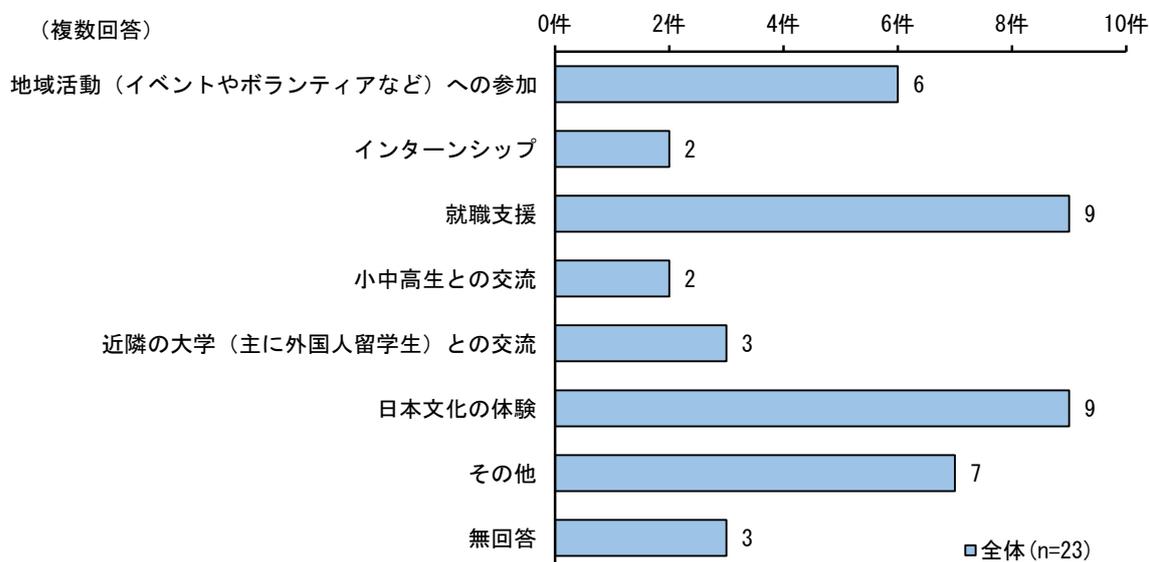


(6) 留学生支援[※]について

※留学生支援・・・ここでは外国人留学生への支援を指します。

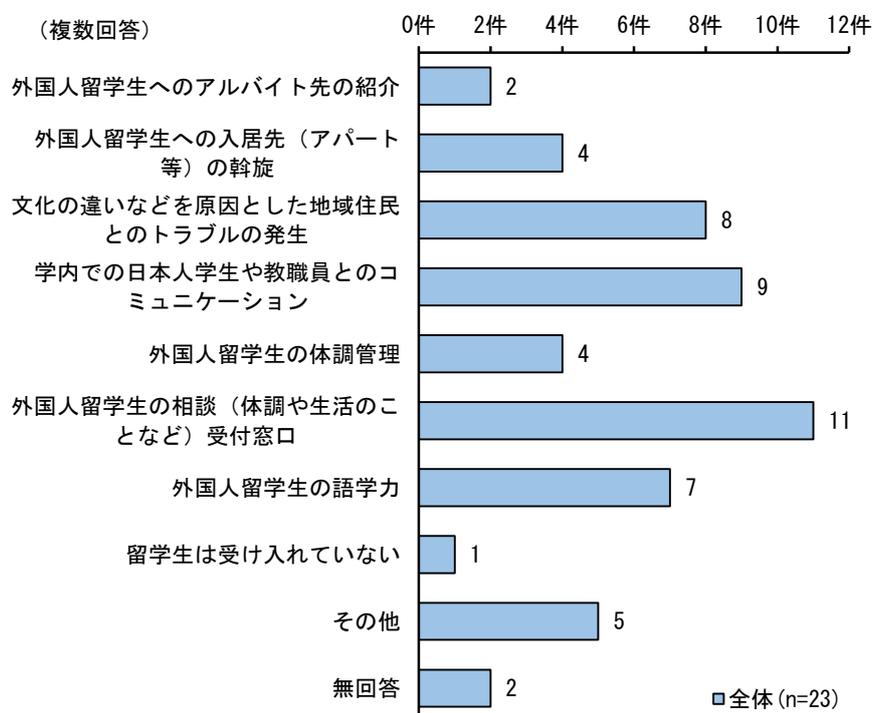
①留学生支援で力を入れたいこと

「就職支援」と「日本文化の体験」がそれぞれ9件で最も多く、次いで「地域活動（イベントやボランティアなど）への参加」が6件となっています。



②留学生支援で課題となる事項

「外国人留学生の相談（体調や生活のことなど）受付窓口」が11件で最も多く、次いで「学内での日本人学生や教職員とのコミュニケーション」が9件、「文化の違いなどを原因とした地域住民とのトラブルの発生」が8件となっています。



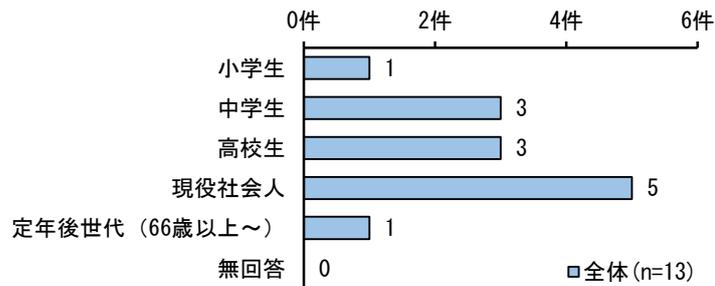
(7) 生涯学習への取組みについて

①学外者を対象に講座を開講することになった場合、ターゲットとして重視する順

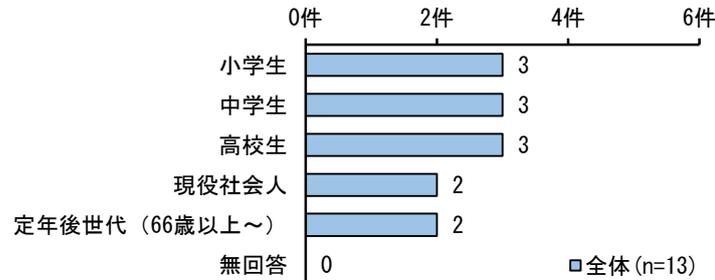
【1位】は「現役社会人」が5件で最も多く、【2位】は「小学生」、「中学生」、「高校生」がそれぞれ3件で最も多く、【3位】は「高校生」が5件で最も多く、【4位】は「中学生」が5件で最も多く、【5位】は「小学生」と「定年後世代（66歳以上～）」がそれぞれ5件で最も多くなっています。

なお、「順位はつけられない」は10件となっています。

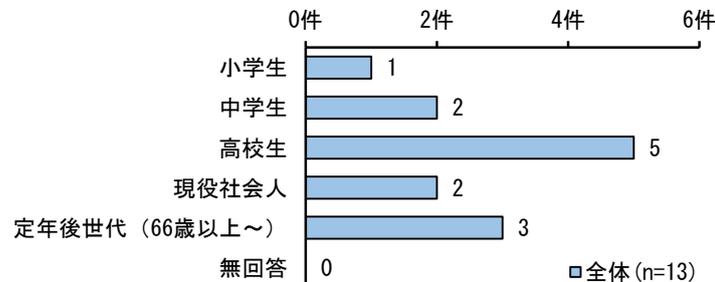
【1位】



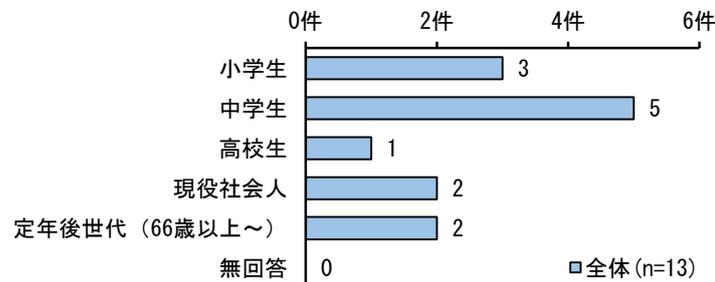
【2位】



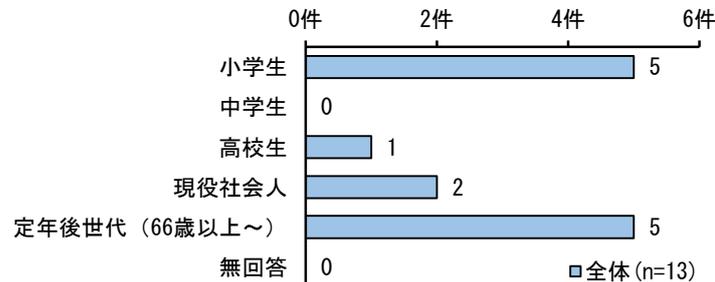
【3位】



【4位】



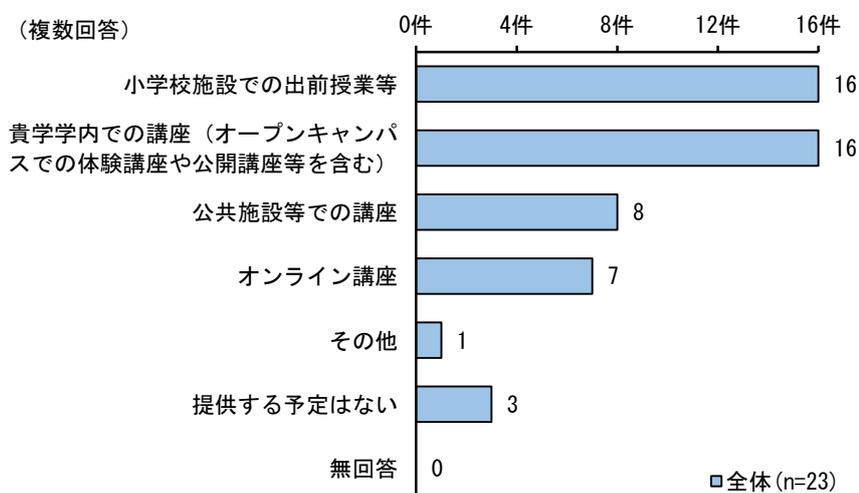
【5位】



②貴学で小学生を対象とした講座を開講しようとする場合について

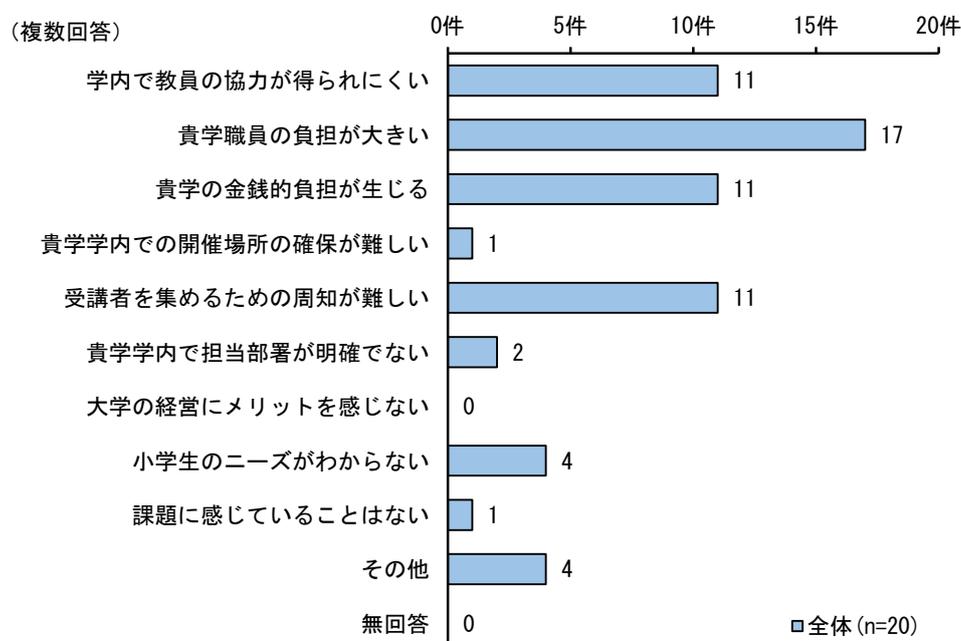
ア. 可能な開催方法

「小学校施設での出前授業等」と「貴学学内での講座（オープンキャンパスでの体験講座や公開講座等を含む）」がそれぞれ16件で最も多く、次いで「公共施設等での講座」が8件となっています。



イ. 課題となる事項（「ア」で「提供する予定はない」以外を選択した学校のみ回答）

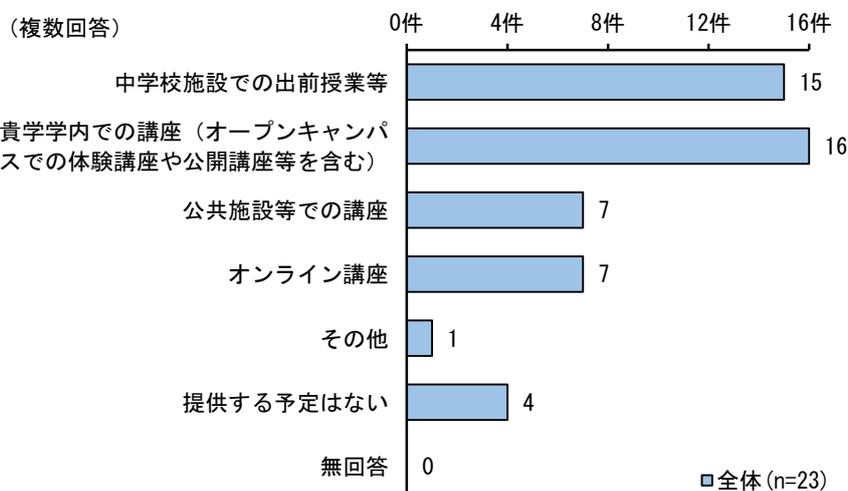
「貴学職員の負担が大きい」が17件で最も多く、次いで「学内で教員の協力が得られにくい」、「貴学の金銭的負担が生じる」、「受講者を集めるための周知が難しい」がそれぞれ11件となっています。



③貴学で中学生を対象とした講座を開講しようとする場合について

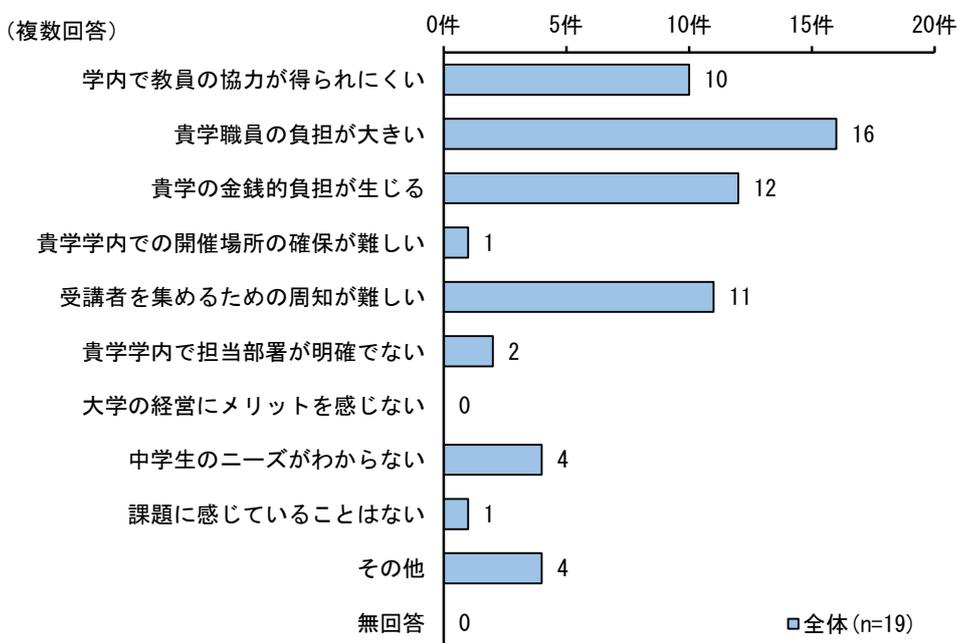
ア. 可能な開催方法

「貴学学内での講座（オープンキャンパスでの体験講座や公開講座等を含む）」が16件で最も多く、次いで「中学校施設での出前授業等」が15件、「公共施設等での講座」と「オンライン講座」がそれぞれ7件となっています。



イ. 課題となる事項（「ア」で「提供する予定はない」以外を選択した学校のみ回答）

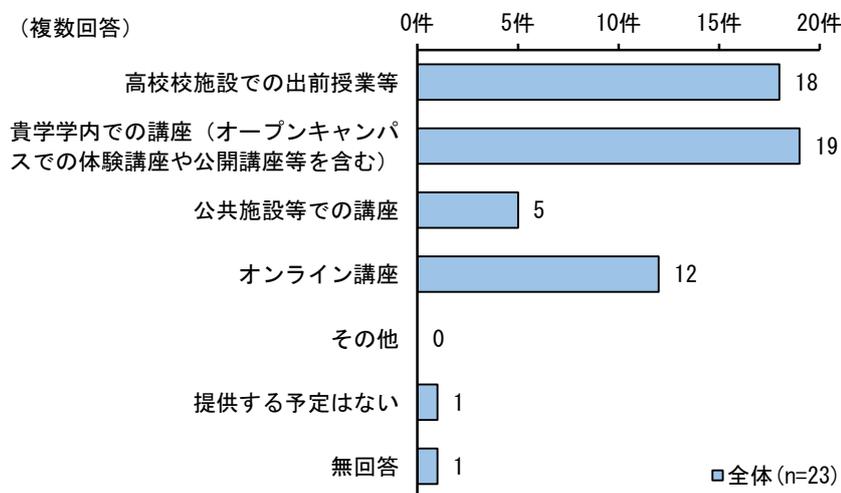
「貴学職員の負担が大きい」が16件で最も多く、次いで「貴学の金銭的負担が生じる」が12件、「受講者を集めるための周知が難しい」が11件となっています。



④貴学で高校生を対象とした講座を開講しようとする場合について

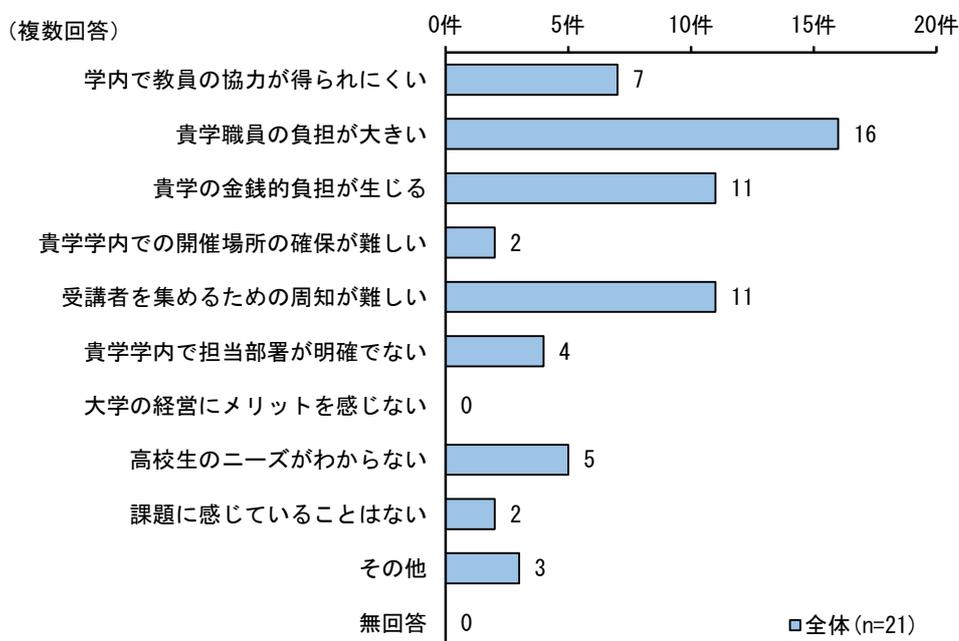
ア. 可能な開催方法

「貴学学内での講座（オープンキャンパスでの体験講座や公開講座等を含む）」が19件で最も多く、次いで「高校校施設での出前授業等」が18件、「オンライン講座」が12件となっています。



イ. 課題となる事項（「ア」で「提供する予定はない」以外を選択した学校のみ回答）

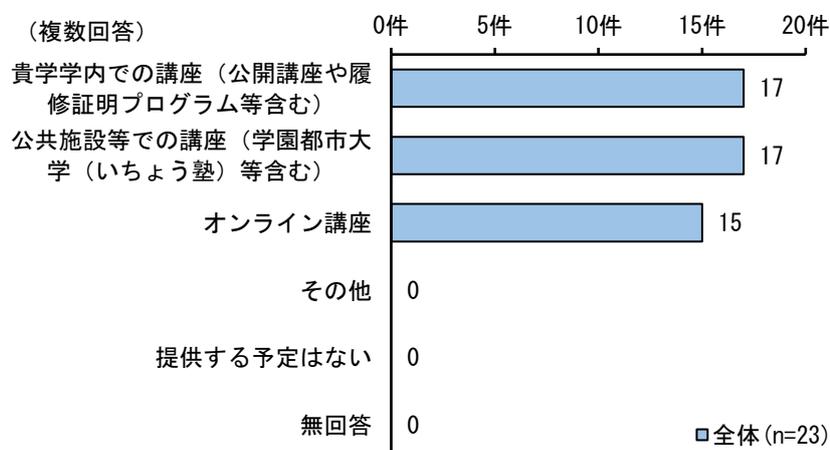
「貴学職員の負担が大きい」が16件で最も多く、次いで「貴学の金銭的負担が生じる」と「受講者を集めるための周知が難しい」がそれぞれ11件となっています。



⑤貴学で現役社会人を対象とした講座を開講しようとする場合について

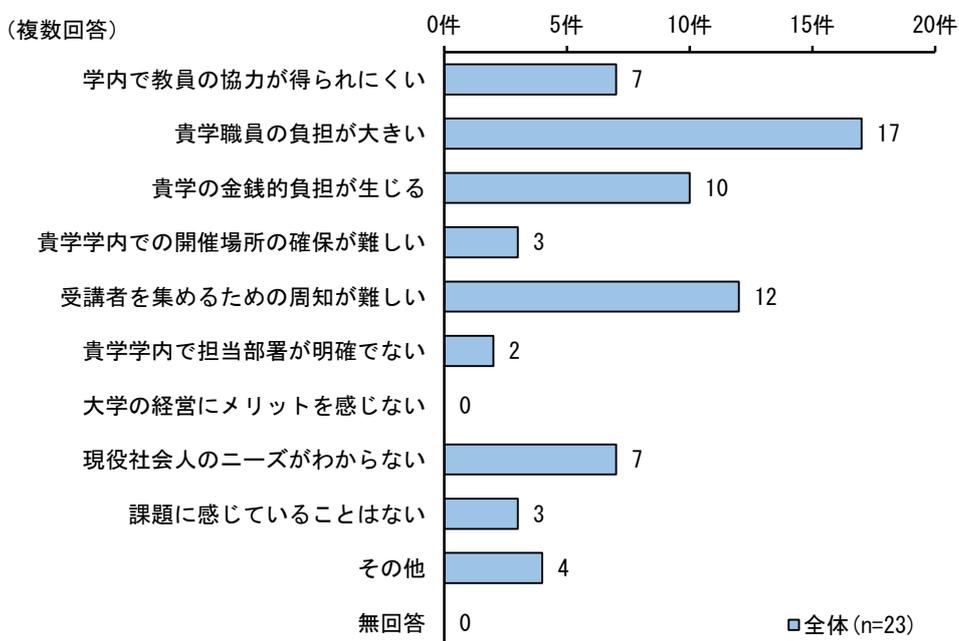
ア. 可能な開催方法

「貴学学内での講座（公開講座や履修証明プログラム等含む）」と「公共施設等での講座（学園都市大学（いちょう塾）等含む）」がそれぞれ 17 件で最も多く、次いで「オンライン講座」が 15 件となっています。



イ. 課題となる事項（「ア」で「提供する予定はない」以外を選択した学校のみ回答）

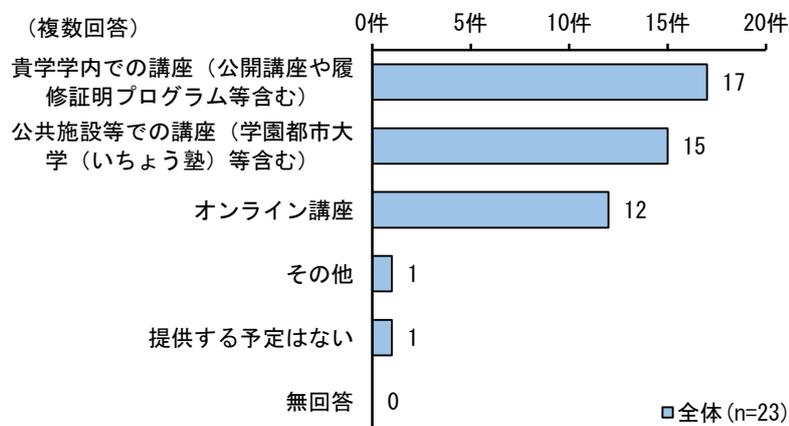
「貴学職員の負担が大きい」が 17 件で最も多く、次いで「受講者を集めるための周知が難しい」が 12 件、「貴学の金銭的負担が生じる」が 10 件となっています。



⑥貴学で定年後世代（66歳以上～）を対象とした講座を開講しようとする場合について

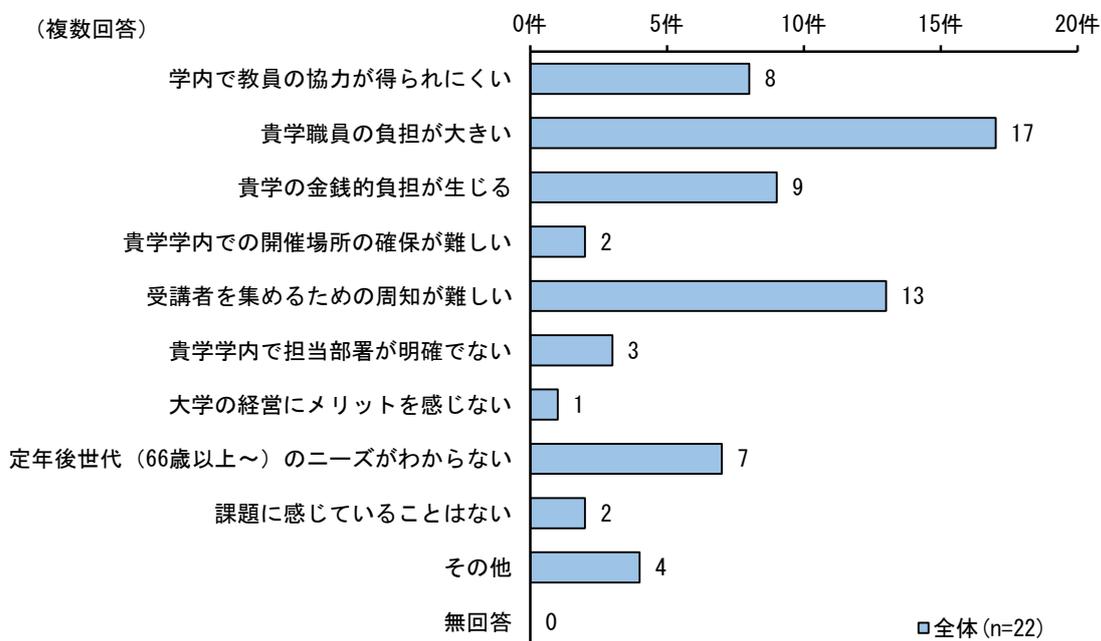
ア. 可能な開催方法

「貴学学内での講座（公開講座や履修証明プログラム等含む）」が17件で最も多く、次いで「公共施設等での講座（学園都市大学（いちょう塾）等含む）」が15件、「オンライン講座」が12件となっています。



イ. 課題となる事項（「ア」で「提供する予定はない」以外を選択した学校のみ回答）

「貴学職員の負担が大きい」が17件で最も多く、次いで「受講者を集めるための周知が難しい」が13件、「貴学の金銭的負担が生じる」が9件となっています。



⑦貴学として考えられる、八王子市学園都市センター※の活用方法

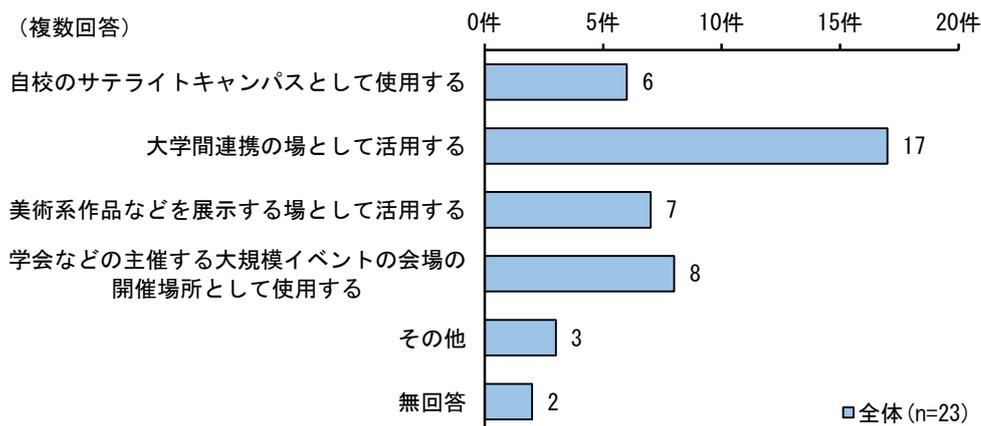
※八王子市学園都市センター：

学園都市づくりの拠点施設として市民と大学との幅広い交流の場を提供しています。また、皆さんの文化活動の場となるほか、学習や文化に関する情報も提供しています。

客席数が最大 288 席の多目的ホールであるイベントホール、美術品などが展示できるギャラリーホール、セミナー室、サウンドルーム、和室、交流サロンなどがあります。

<https://www.hachiojibunka.or.jp/gakuen/>

「大学間連携の場として活用する」が 17 件で最も多く、次いで「学会などの主催する大規模イベントの会場の開催場所として使用する」が 8 件、「美術系作品などを展示する場として活用する」が 7 件となっています。

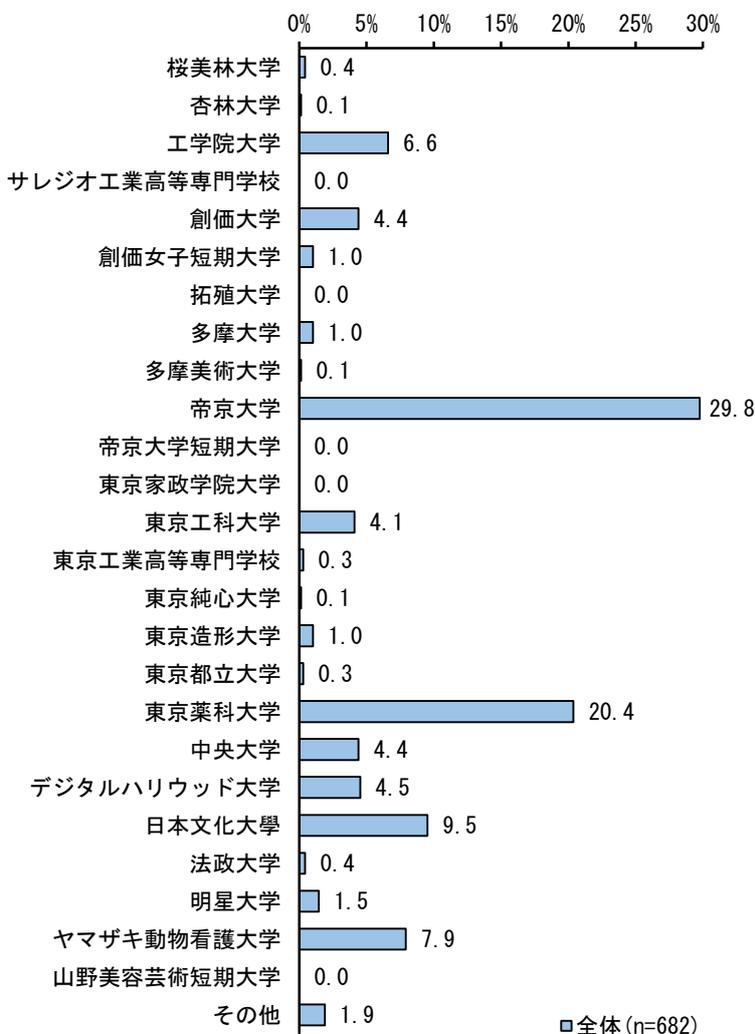


3 大学生調査結果

(1) 回答者の属性

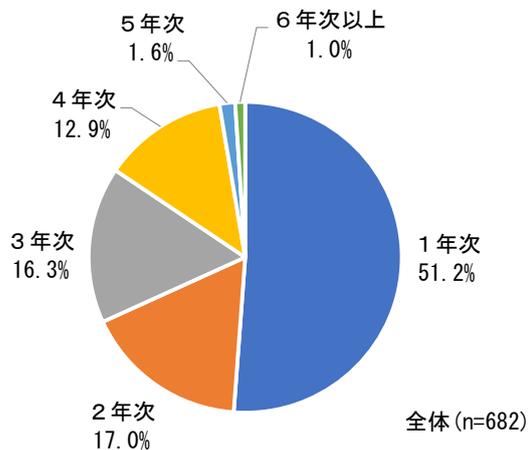
①大学名

「帝京大学」が29.8%で最も多く、次いで「東京薬科大学」が20.4%、「日本文化大學」が9.5%となっています。



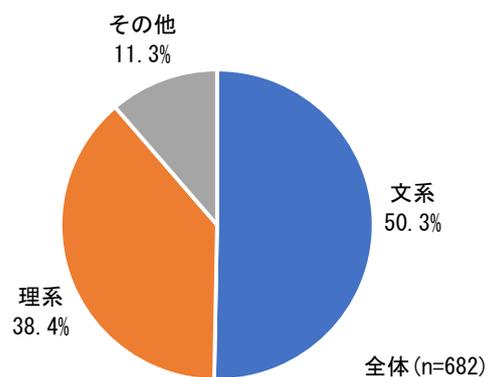
②学年

「1年次」が51.2%で最も多く、次いで「2年次」が17.0%、「3年次」が16.3%となっています。



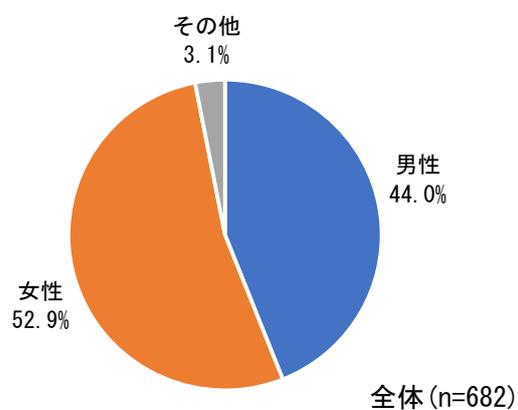
③専攻

「文系」が 50.3%、「理系」が 38.4%、「その他」が 11.3%となっています。



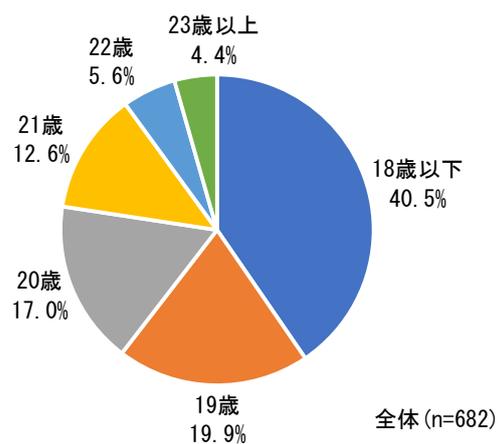
④性別

「男性」が 44.0%、「女性」が 52.9%、「その他」が 3.1%となっています。



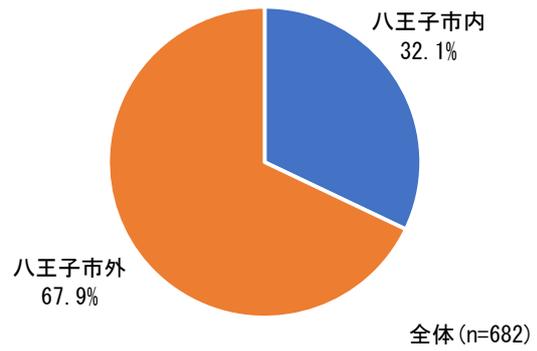
⑤年齢

「18歳以下」が 40.5%で最も多く、次いで「19歳」が 19.9%、「20歳」が 17.0%となっています。



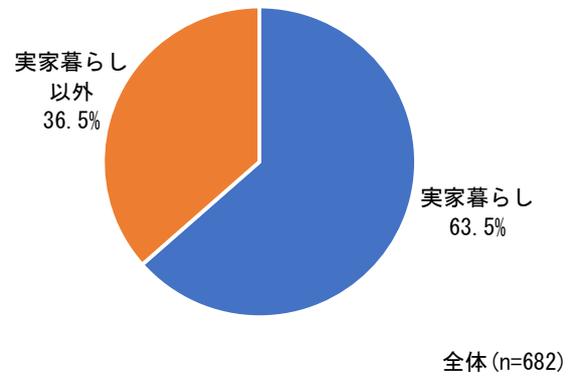
⑥居住地

「八王子市内」が32.1%、「八王子市外」が67.9%となっています。



⑦居住形態

「実家暮らし」が63.5%、「実家暮らし以外」が36.5%となっています。

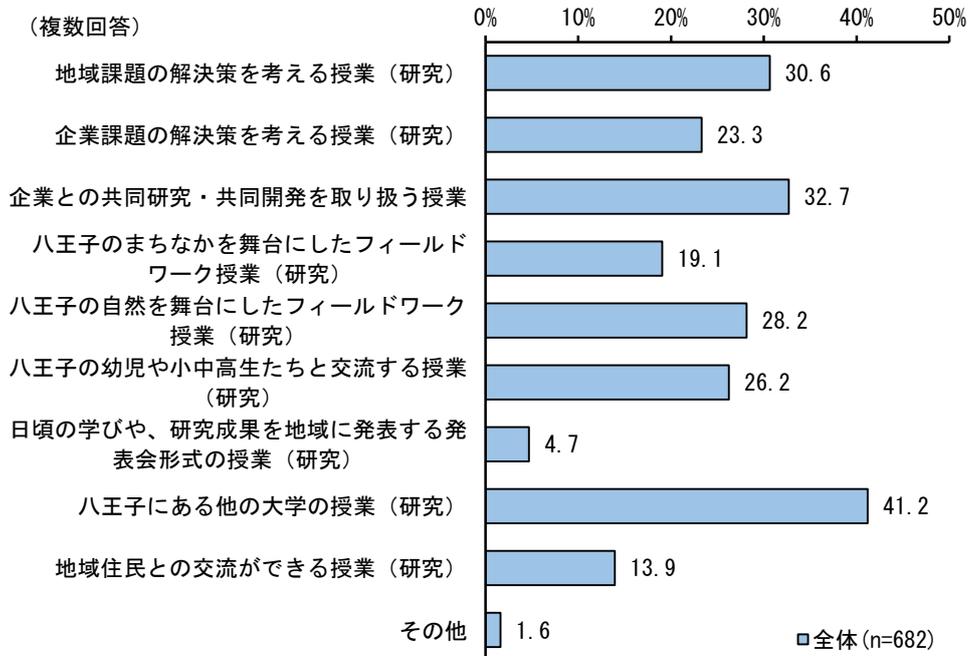


(2) 八王子地域の人材や資源を活用した学びについて

(なお、ここでの「地域」は、八王子市及びその周辺自治体の市域、及びその市域内にある組織・団体・個人を指します。)

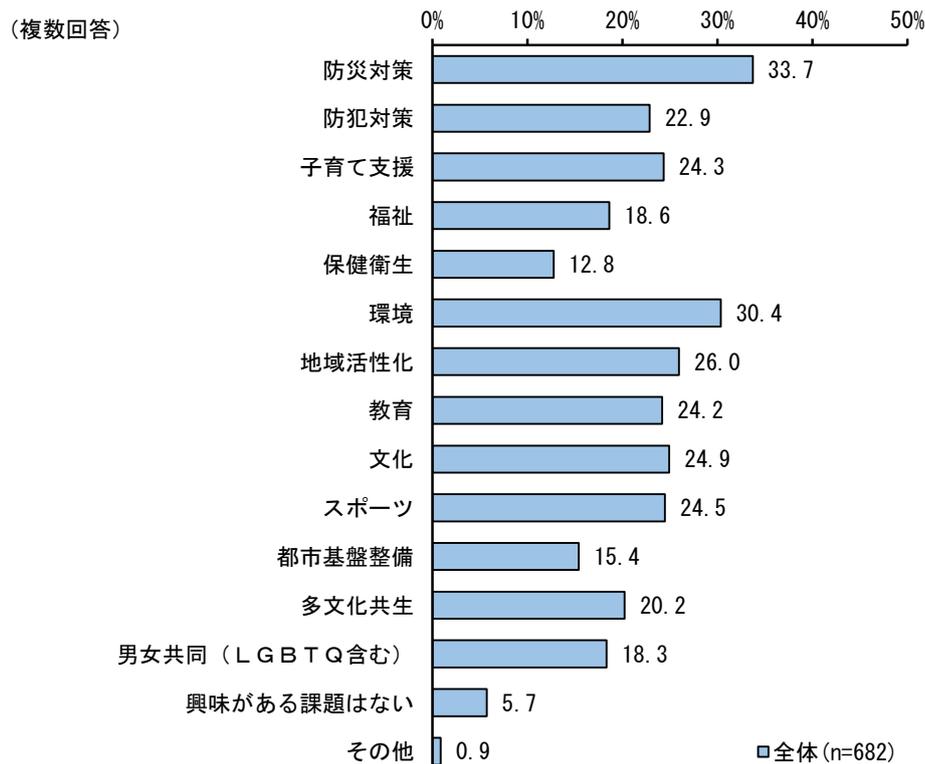
①受けてみたい授業（研究）

「八王子にある他の大学の授業（研究）」が41.2%で最も多く、次いで「企業との共同研究・共同開発を取り扱う授業」が32.7%、「地域課題の解決策を考える授業（研究）」が30.6%となっています。



②授業や課外活動などで取組んでみたい行政課題

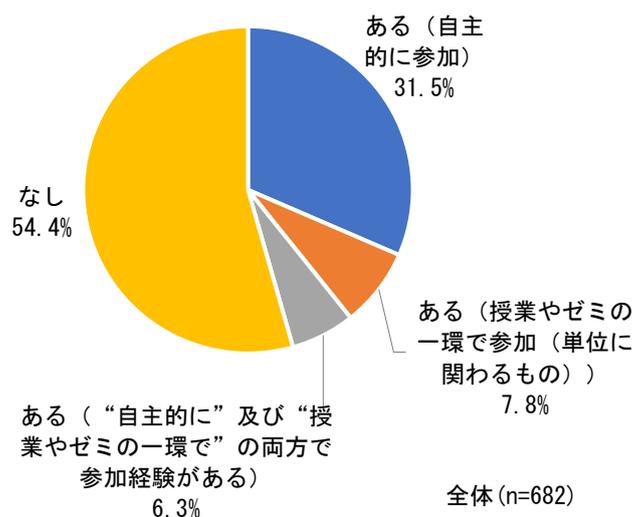
「防災対策」が33.7%で最も多く、次いで「環境」が30.4%、「地域活性化」が26.0%となっています。



(3) ボランティア活動について

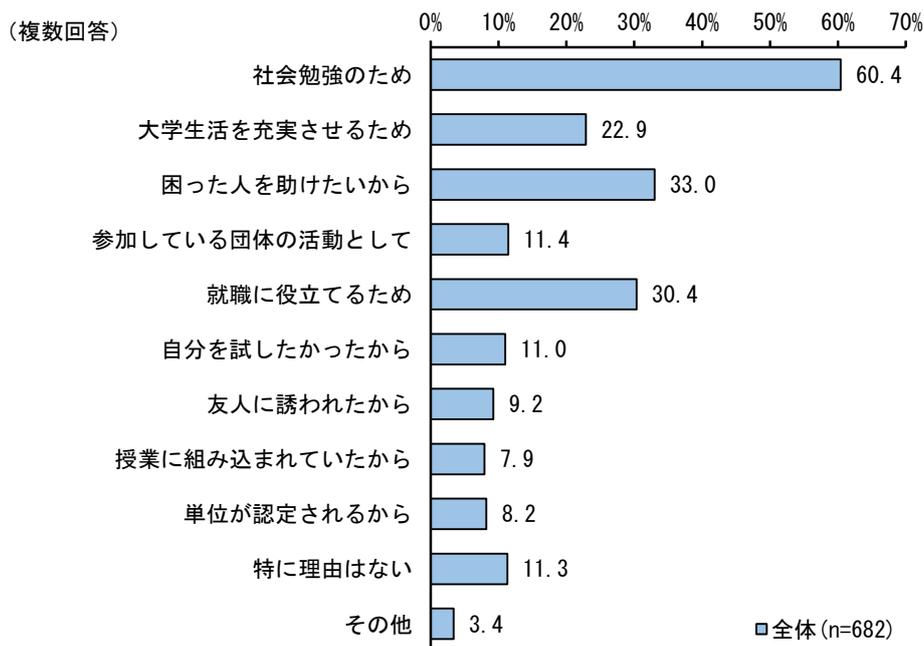
①ボランティア活動への参加の有無

「なし」が54.4%で最も多く、次いで「ある（自主的に参加）」が31.5%、「ある（授業やゼミの一環で参加（単位に関わるもの）」が7.8%となっています。



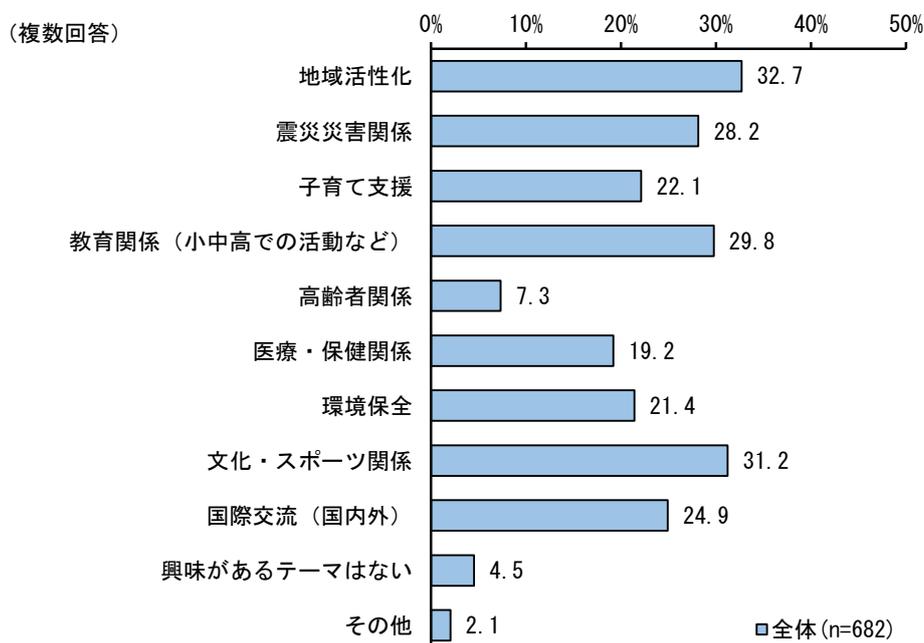
②ボランティア活動に参加する目的

「社会勉強のため」が60.4%で最も多く、次いで「困った人を助けたいから」が33.0%、「就職に役立てるため」が30.4%となっています。



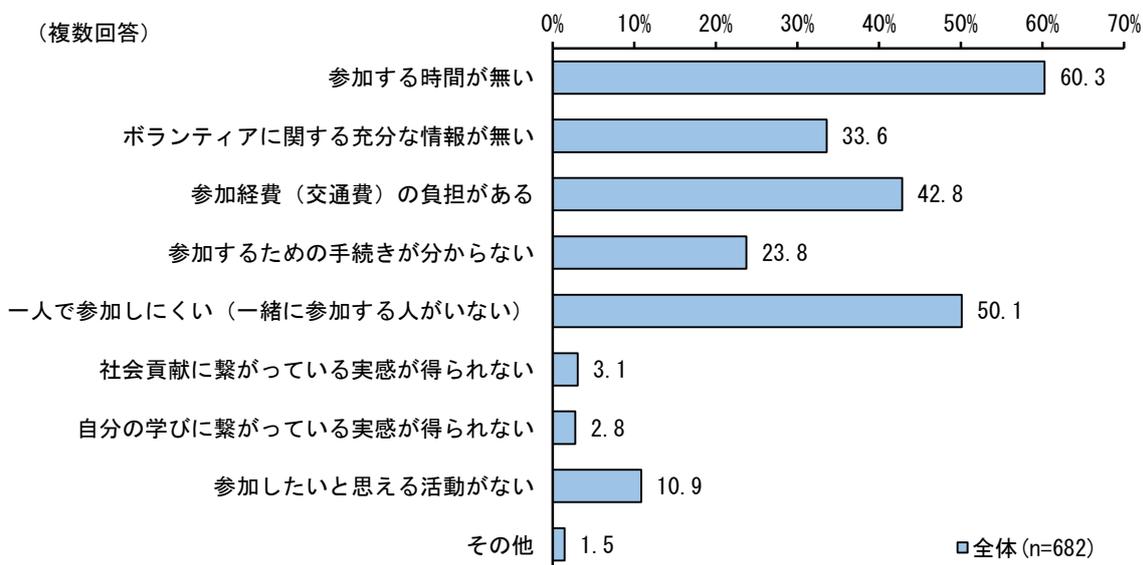
③参加したいと思うボランティア活動の種類

「地域活性化」が32.7%で最も多く、次いで「文化・スポーツ関係」が31.2%、「教育関係（小中高での活動など）」が29.8%となっています。



④ボランティア活動に参加するときに支障となること

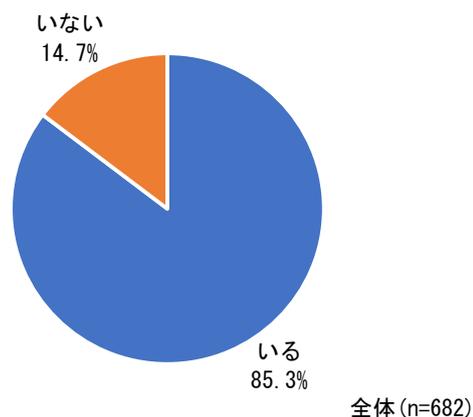
「参加する時間が無い」が60.3%で最も多く、次いで「一人で参加しにくい（一緒に参加する人がいない）」が50.1%、「参加経費（交通費）の負担がある」が42.8%となっています。



(4) 日常生活について

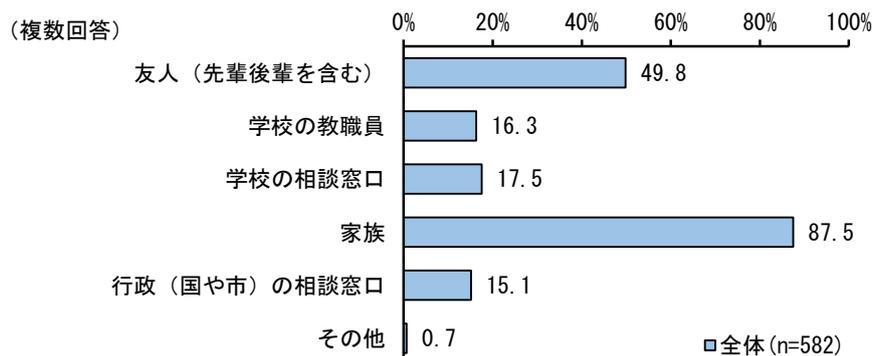
①消費生活（詐欺被害や契約上のトラブルなど）について相談できる人の有無

「いる」が85.3%、「いない」が14.7%となっています。



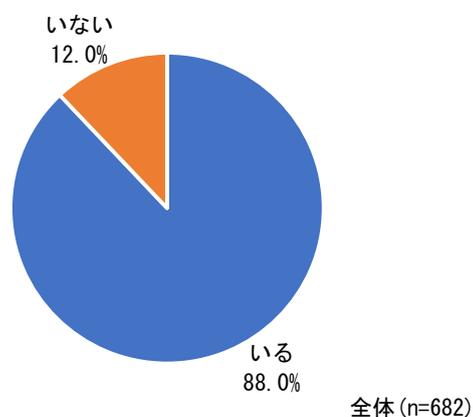
②消費生活についての相談先として思い浮かぶ相手（①で「いる」を選択した方のみ回答）

「家族」が87.5%で最も多く、次いで「友人（先輩後輩を含む）」が49.8%、「学校の相談窓口」が17.5%となっています。



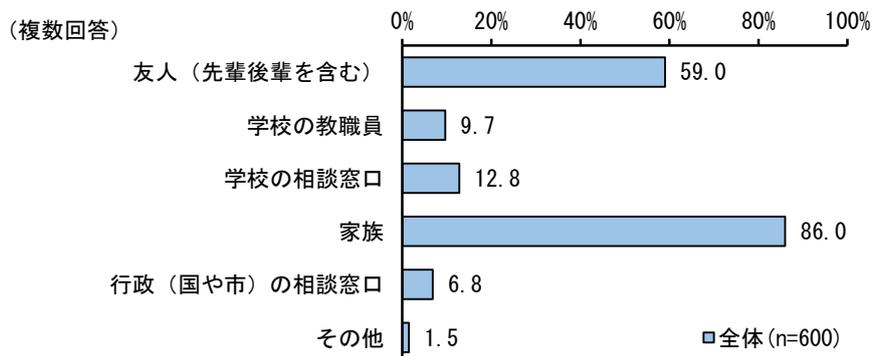
③健康（アルコールや喫煙に関する内容を含む）について相談できる人の有無

「いる」が88.0%、「いない」が12.0%となっています。



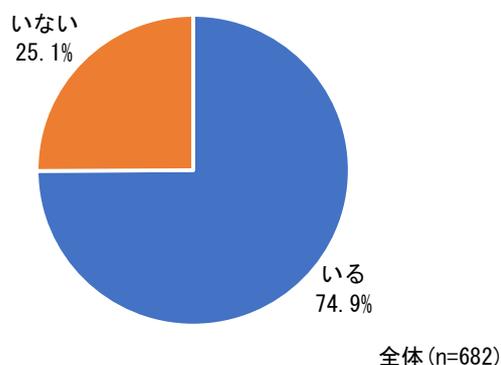
④健康についての相談先として思い浮かぶ相手（③で「いる」を選択した方のみ回答）

「家族」が86.0%で最も多く、次いで「友人（先輩後輩を含む）」が59.0%、「学校の相談窓口」が12.8%となっています。



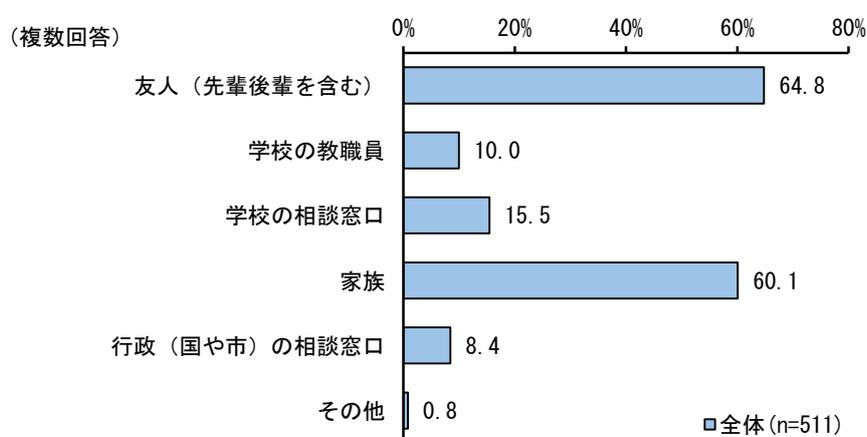
⑤性に関すること (LGBTQ やハラスメントなど) について相談できる人の有無

「いる」が74.9%、「いない」が25.1%となっています。



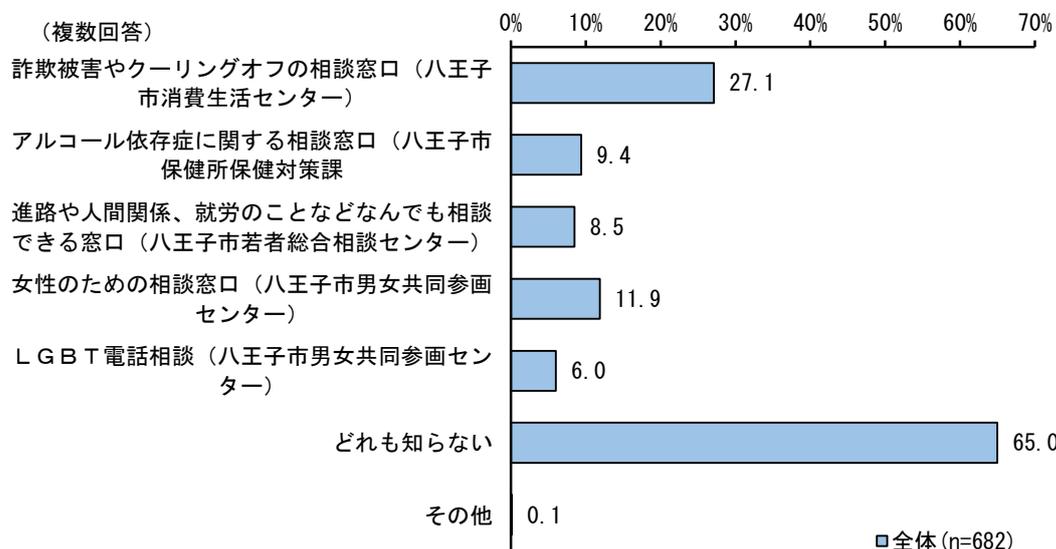
⑥性についての相談先として思い浮かぶ相手（⑤で「いる」を選択した方のみ回答）

「友人（先輩後輩を含む）」が64.8%で最も多く、次いで「家族」が60.1%、「学校の相談窓口」が15.5%となっています。



⑦市役所の相談窓口で知っているもの

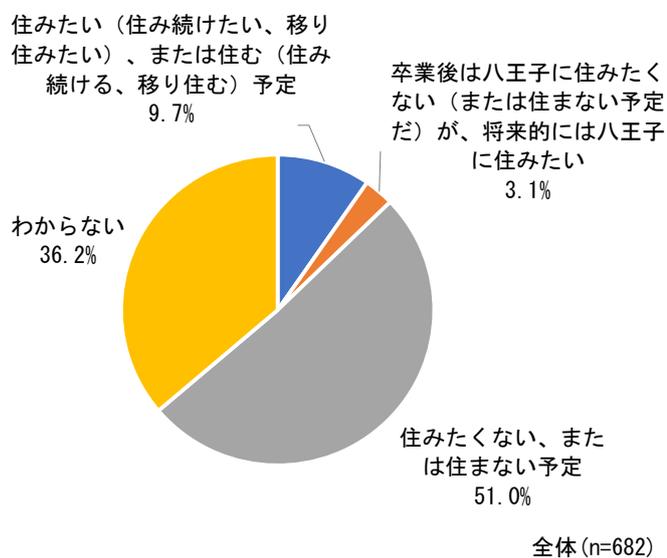
「どれも知らない」が65.0%で大半を占めています。知っているものでは、「詐欺被害やクーリングオフの相談窓口（八王子市消費生活センター）」が27.1%で最も多く、次いで「女性のための相談窓口（八王子市男女共同参画センター）」が11.9%、「アルコール依存症に関する相談窓口（八王子市保健所保健対策課）」が9.4%となっています。



(5) 卒業後の定住意向について

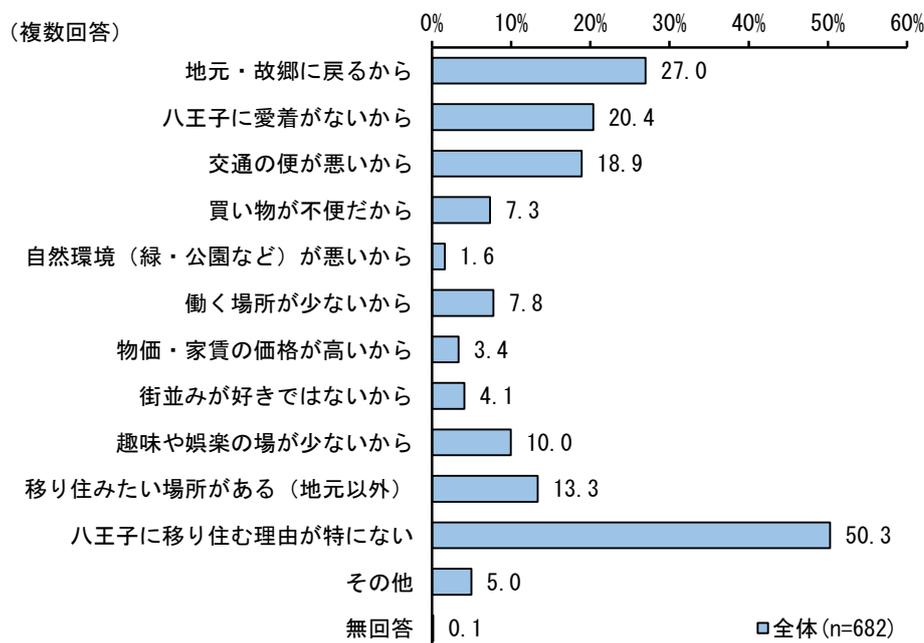
①卒業後の八王子市内への定住意向

「住みたくない、または住まない予定」が51.0%で最も多く、次いで「わからない」が36.2%、「住みたい（住み続けたい、移り住みたい）、または住む（住み続ける、移り住む）予定」が9.7%となっています。



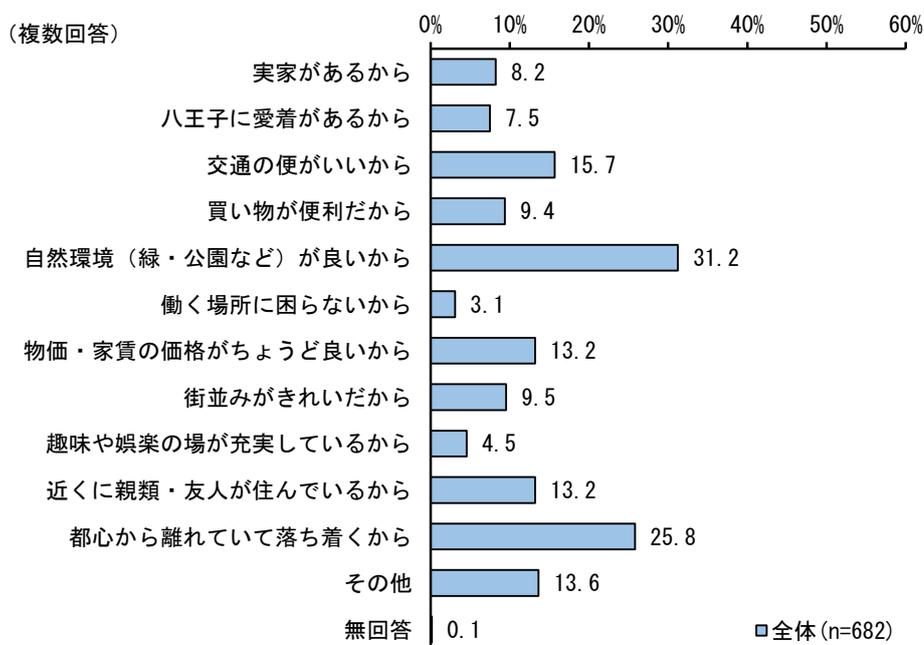
②八王子市内に住みたくない理由

「八王子に移り住む理由が特にない」が50.3%で最も多く、次いで「地元・故郷に戻るから」が27.0%、「八王子に愛着がないから」が20.4%となっています。



③八王子市内に住みたい理由

「自然環境（緑・公園など）が良いから」が31.2%で最も多く、次いで「都心から離れていて落ち着くから」が25.8%、「交通の便がいいから」が15.7%となっています。

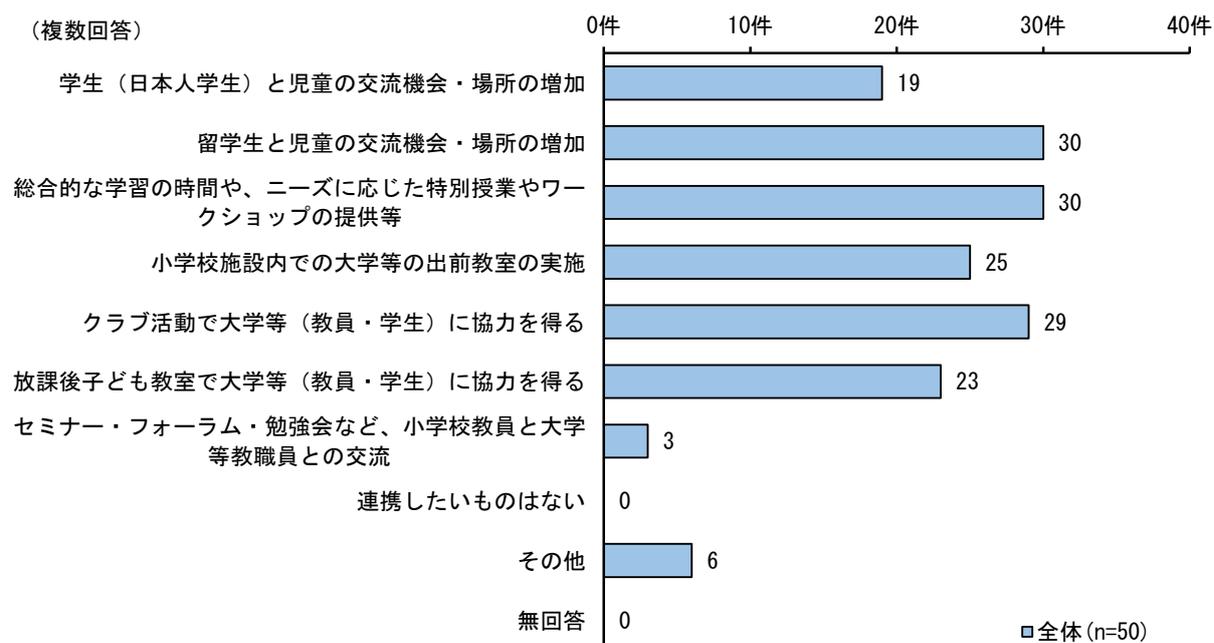


4 小学校・中学校・高等学校調査結果

【小学校】

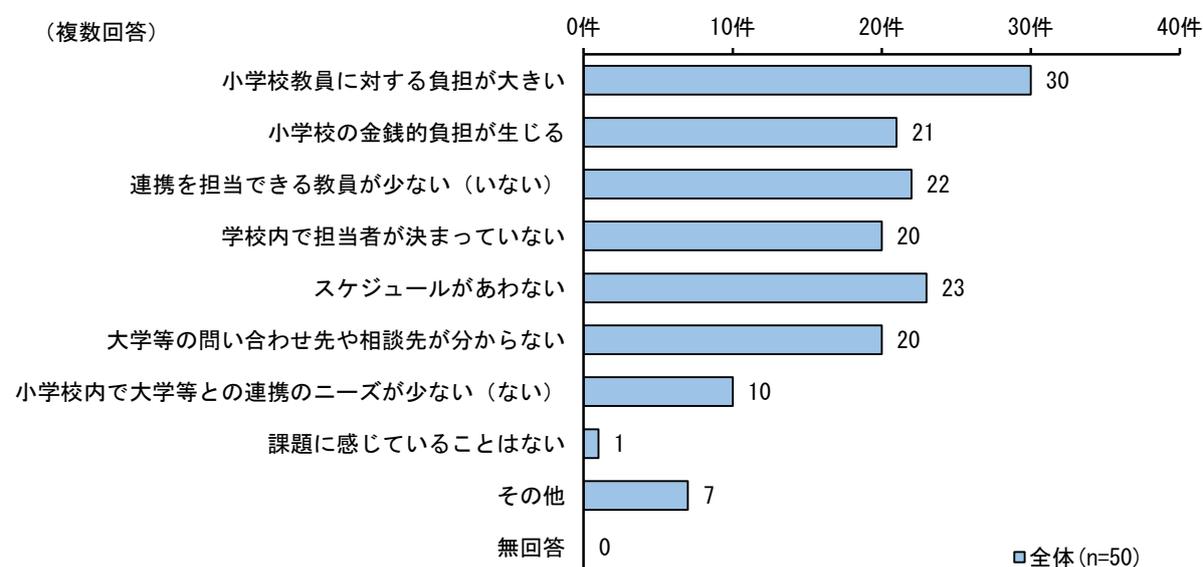
(1) 八王子地域の大学等との連携で推進したいこと

「留学生と児童の交流機会・場所の増加」と「総合的な学習の時間や、ニーズに応じた特別授業やワークショップの提供等」がそれぞれ 30 件で最も多く、次いで「クラブ活動で大学等（教員・学生）に協力を得る」が 29 件となっています。



(2) 八王子地域の大学等との連携を推進する上での課題

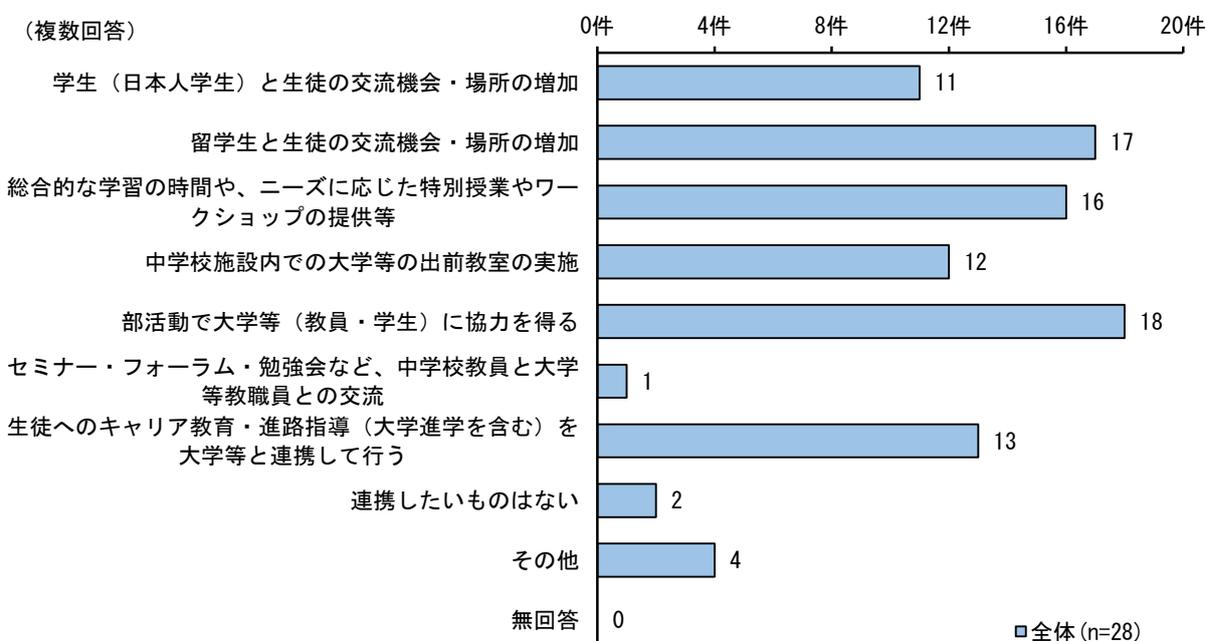
「小学校教員に対する負担が大きい」が 30 件で最も多く、次いで「スケジュールがあわない」が 23 件、「連携を担当できる教員が少ない（いない）」が 22 件となっています。



【中学校】

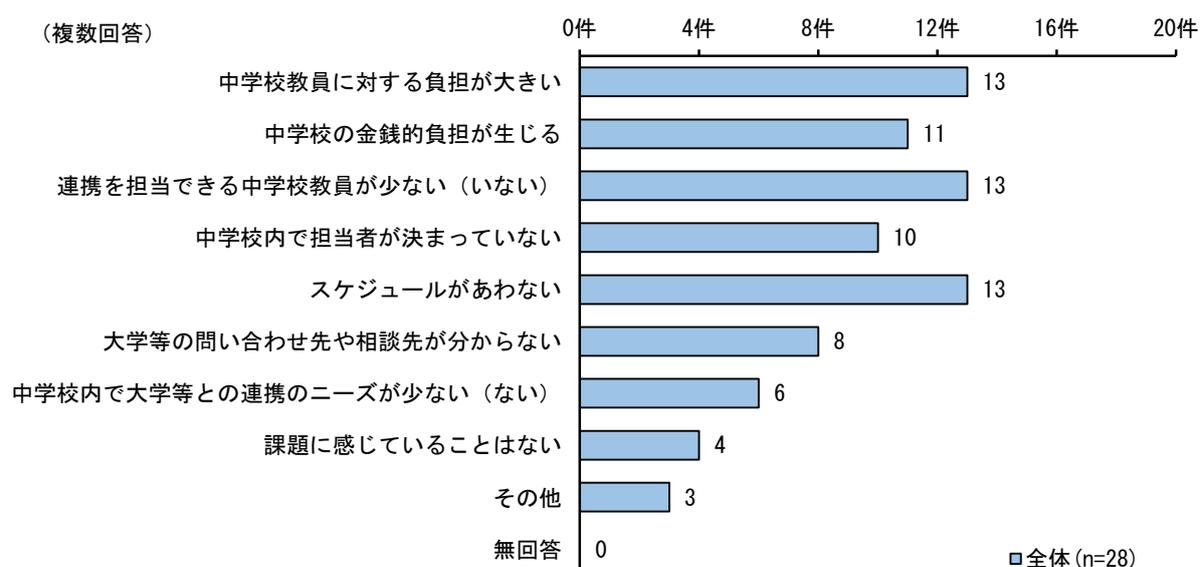
(1) 八王子地域の大学等との連携で推進したいこと

「部活動で大学等（教員・学生）に協力を得る」が18件で最も多く、次いで「留学生と生徒の交流機会・場所の増加」が17件、「総合的な学習の時間や、ニーズに応じた特別授業やワークショップの提供等」が16件となっています。



(2) 八王子地域の大学等との連携を推進する上での課題

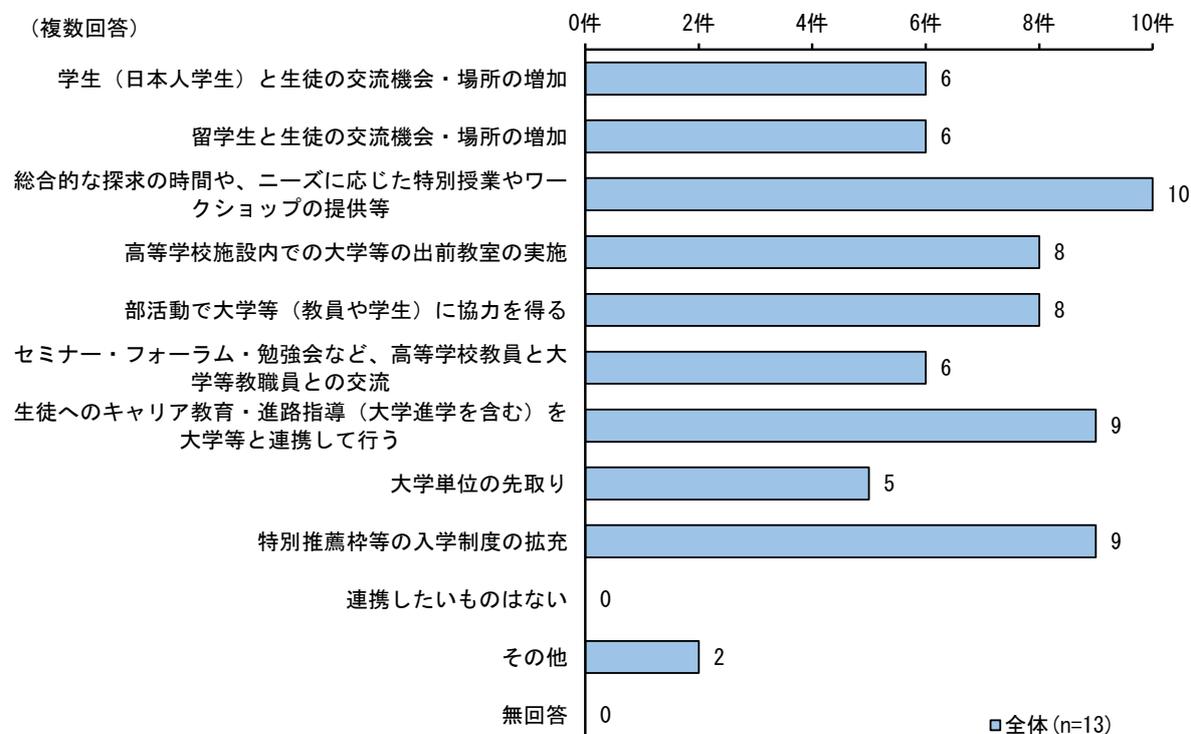
「中学校教員に対する負担が大きい」、「連携を担当できる中学校教員が少ない（いない）」、「スケジュールがあわない」がそれぞれ13件で最も多くなっています。



【高等学校】

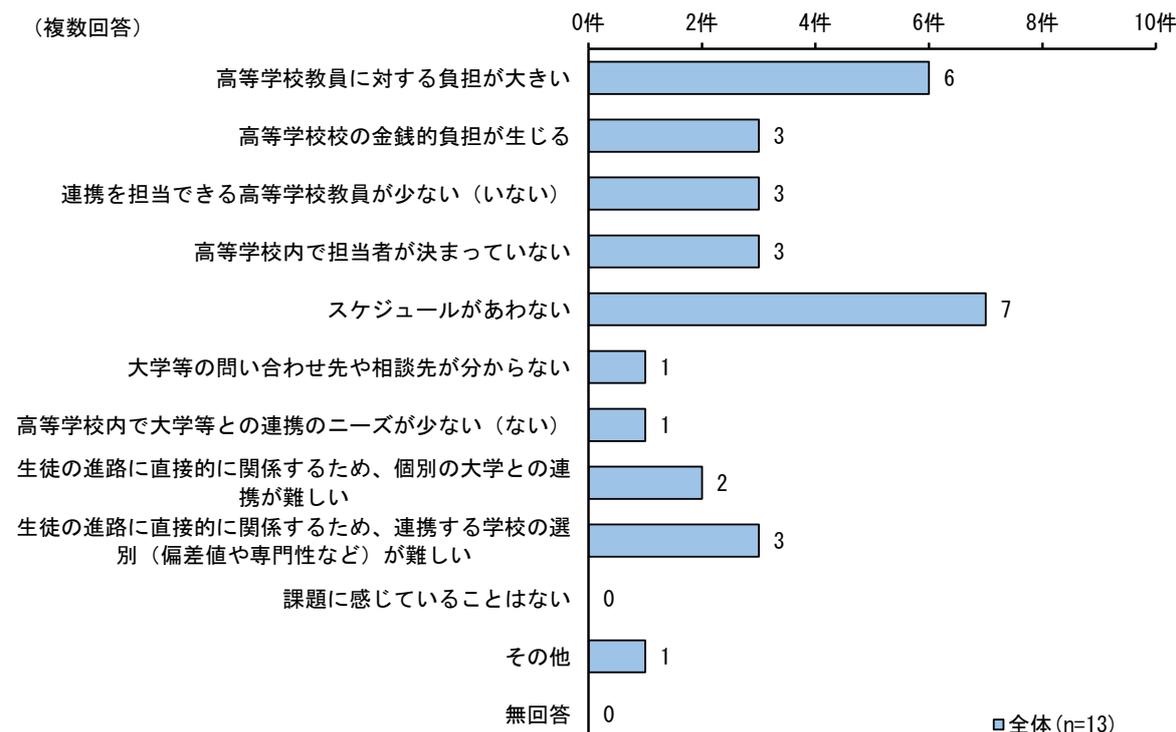
(1) 八王子地域の大学等との連携で推進したいこと

「総合的な探求の時間や、ニーズに応じた特別授業やワークショップの提供等」が10件で最も多く、次いで「生徒へのキャリア教育・進路指導（大学進学を含む）を大学等と連携して行う」と「特別推薦枠等の入学制度の拡充」がそれぞれ9件となっています。



(2) 八王子地域の大学等との連携を推進する上での課題

「スケジュールがあわない」が7件で最も多く、次いで「高等学校教員に対する負担が大きい」が6件となっています。



5 企業調査結果

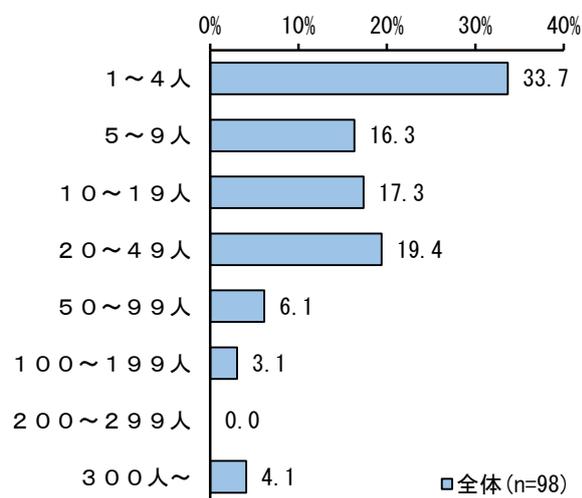
(1) 回答企業の属性

①企業名

(省略)

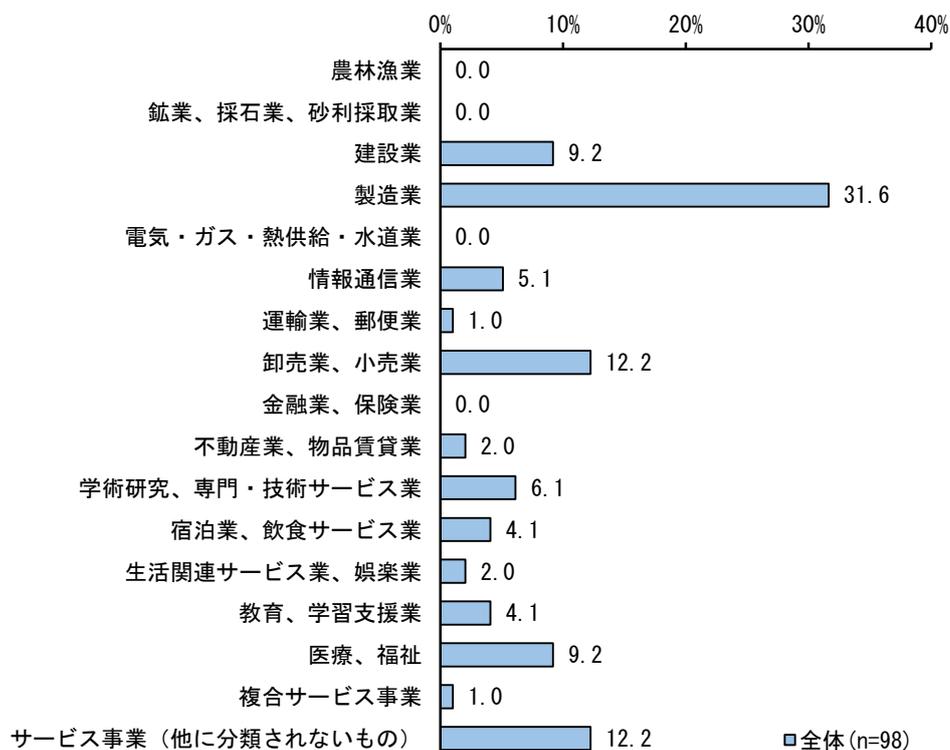
②従業員数(常用)

「1～4人」が33.7%で最も多く、次いで「20～49人」が19.4%、「10～19人」が17.3%となっています。



③主たる事業分野

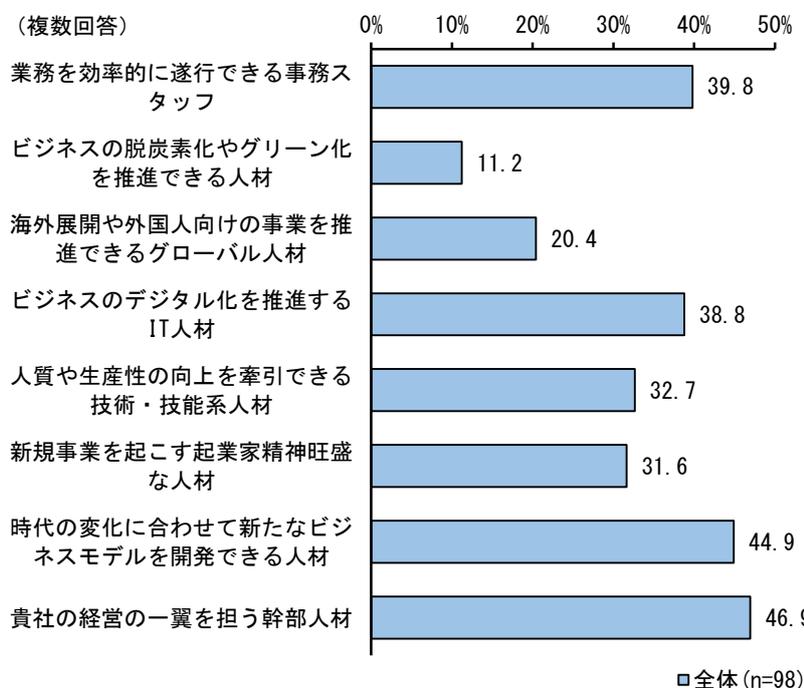
「製造業」が31.6%で最も多く、次いで「運輸業、郵便業」と「サービス事業(他に分類されないもの)」がそれぞれ12.2%となっています。



(2) 人材育成（社員のスキルアップ）について

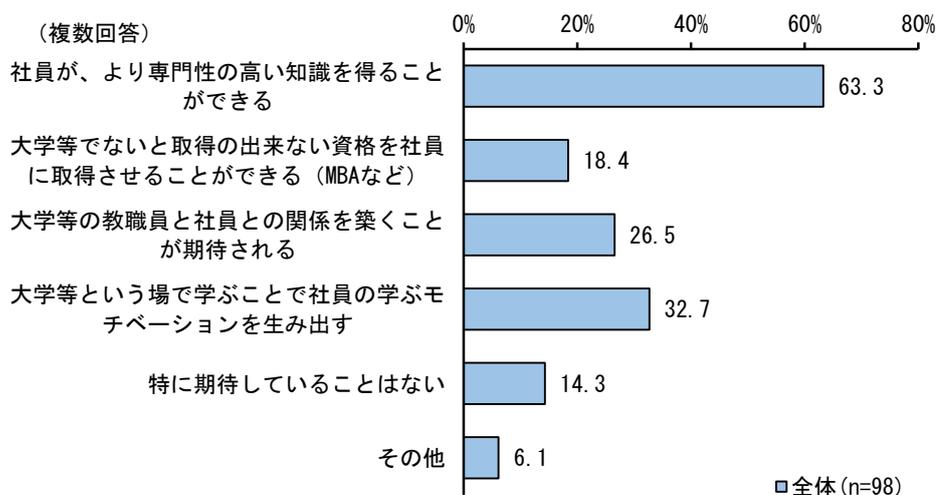
①不足している人材

「貴社の経営の一翼を担う幹部人材」が46.9%で最も多く、次いで「時代の変化に合わせて新たなビジネスモデルを開発できる人材」が44.9%、「業務を効率的に遂行できる事務スタッフ」が39.8%となっています。



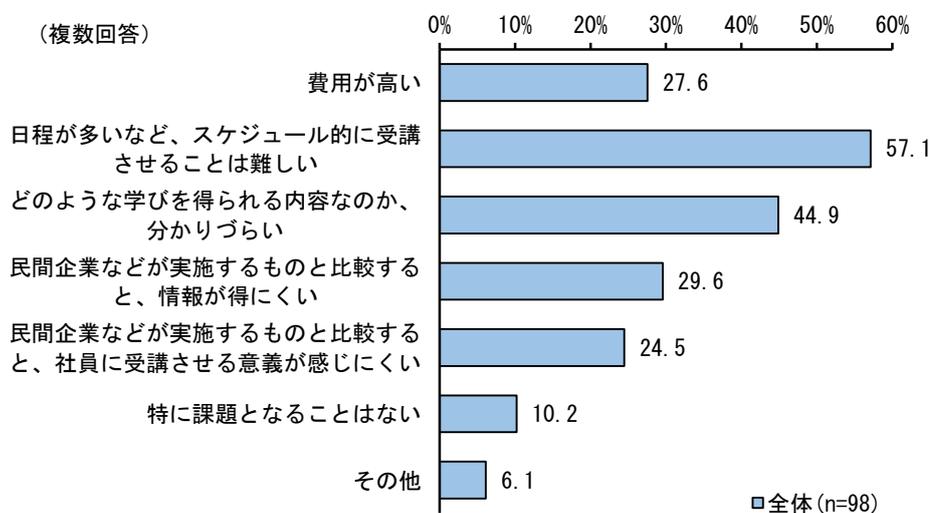
②大学等が開講する講座に対して期待すること

「社員が、より専門性の高い知識を得ることができる」が63.3%で最も多く、次いで「大学等という場で学ぶことで社員の学ぶモチベーションを生み出す」が32.7%、「大学等の教職員と社員との関係を築くことが期待される」が26.5%となっています。



③大学等が開講する講座を人材育成に活用する場合の課題

「日程が多いなど、スケジュール的に受講させることは難しい」が57.1%で最も多く、次いで「どのような学びを得られる内容なのか、分かりづらい」が44.9%、「民間企業などが実施するものと比較すると、情報が得にくい」が29.6%となっています。

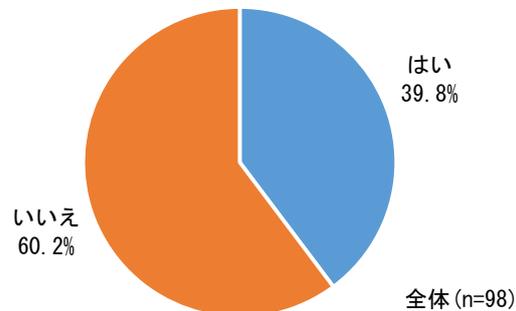


(3) 採用活動について

ここでは、主に学生（大学等の新卒学生）の採用についてお聞きします。

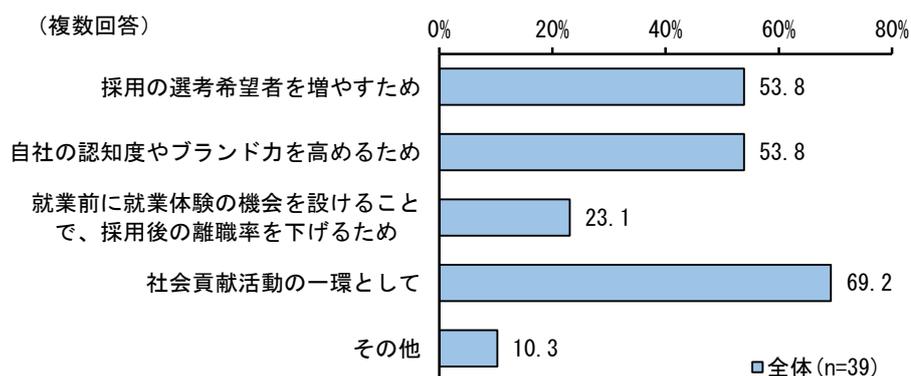
①学生の就業体験の受け入れの有無

「はい」が39.8%、「いいえ」が60.2%となっています。



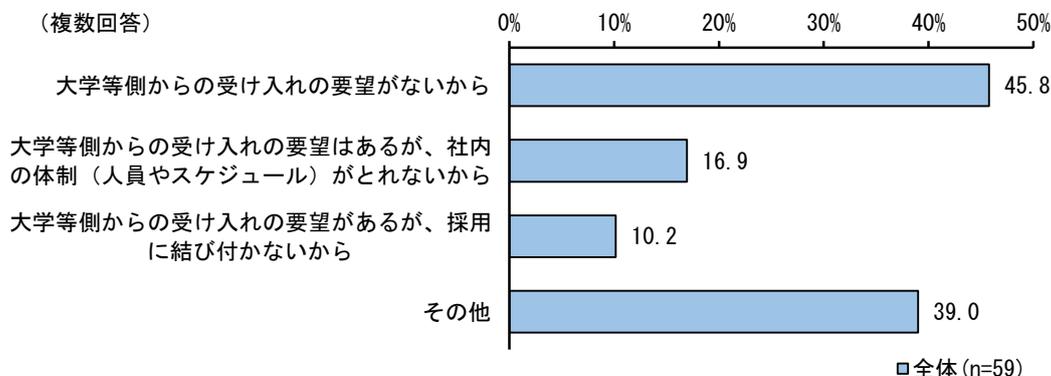
②学生の就業体験を受け入れる理由 (①で「はい」を選択した企業のみ回答)

「社会貢献活動の一環として」が69.2%で最も多く、次いで「採用の選考希望者を増やすため」と「自社の認知度やブランド力を高めるため」がそれぞれ53.8%となっています。



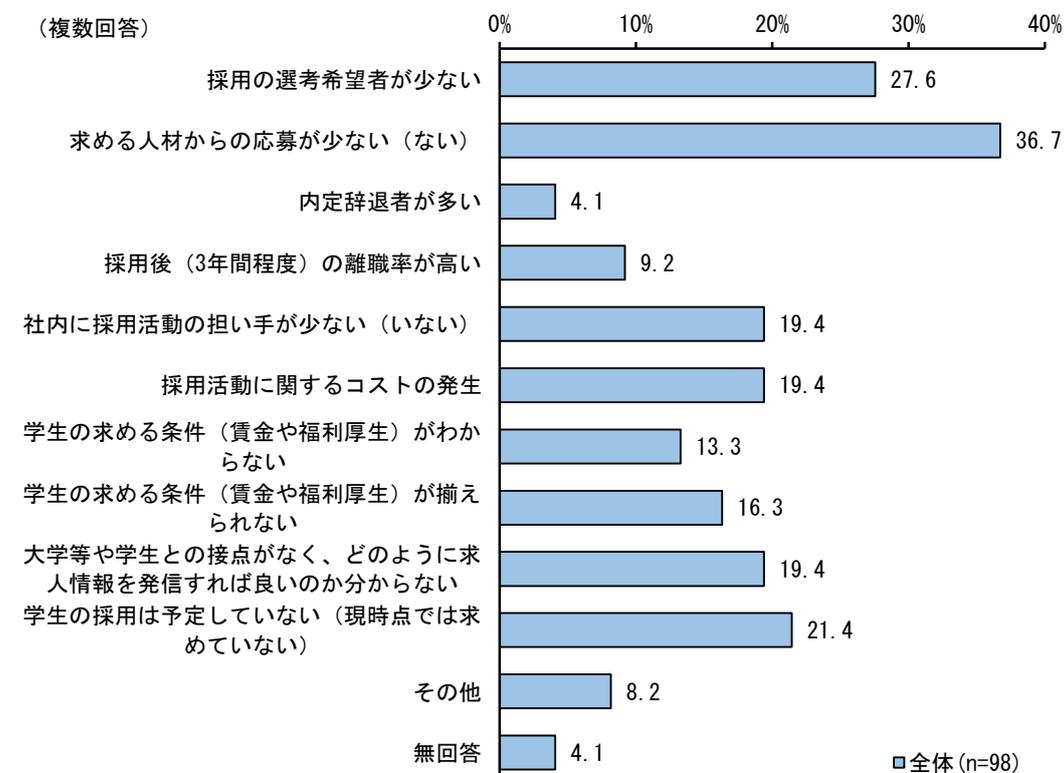
③学生の就業体験を受け入れていない理由（①で「いいえ」を選択した企業のみ回答）

「大学等側からの受け入れの要望がないから」が45.8%で最も多く、次いで「大学等側からの受け入れの要望はあるが、社内の体制（人員やスケジュール）がとれないから」が16.9%、「大学等側からの受け入れの要望があるが、採用に結び付かないから」が10.2%となっています。



④採用における課題

「求める人材からの応募が少ない（ない）」が36.7%で最も多く、次いで「採用の選考希望者が少ない」が27.6%、「学生の採用は予定していない（現時点では求めている）」が21.4%となっています。

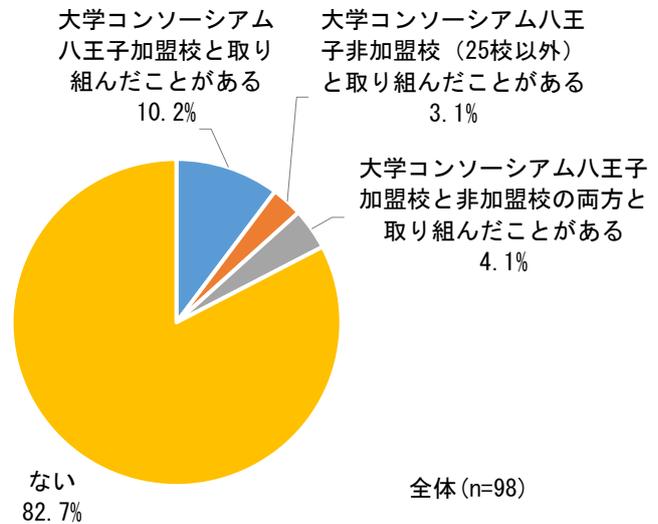


(4) 産学連携※について

※本調査において、「産学連携」とは多業種にわたる事業者と大学等との共同の研究・技術開発（具体的には共同研究、委託研究、試験・性能テスト、技術導入、技術相談、従業員の派遣、教員の招聘等）を指します。

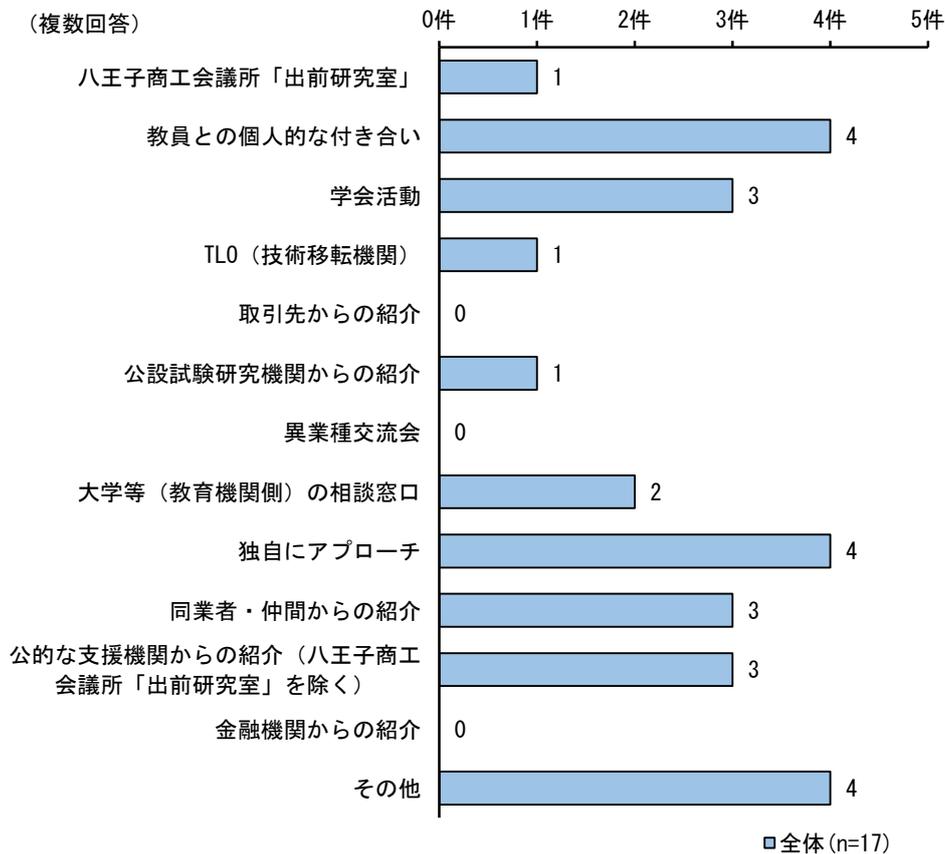
①大学等との産学連携の取組み状況

「ない」が82.7%で最も多く、次いで「大学コンソーシアム八王子加盟校と取り組んだことがある」が10.2%、「大学コンソーシアム八王子加盟校と非加盟校の両方と取り組んだことがある」が4.1%となっています。



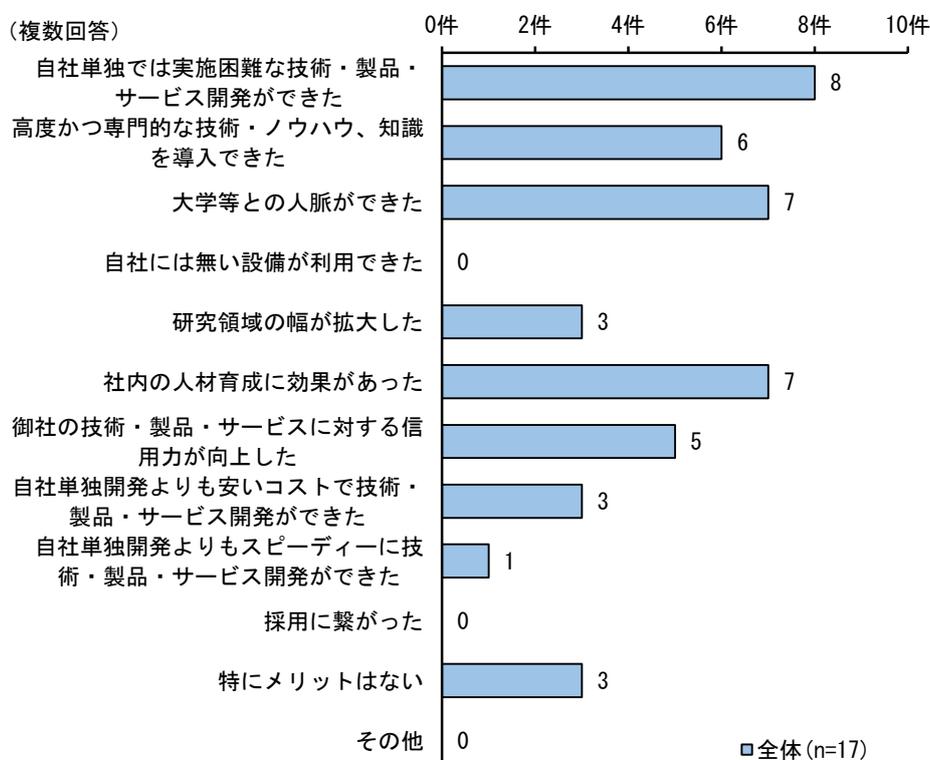
②産学連携の相手先を探した手段（①で「取り組んだことがある」を選択した企業のみ回答）

「教員との個人的な付き合い」と「独自にアプローチ」がそれぞれ4件で最も多く、次いで「学会活動」、「同業者・仲間からの紹介」、「公的な支援機関からの紹介（八王子商工会議所「出前研究室」を除く）」が3件となっています。



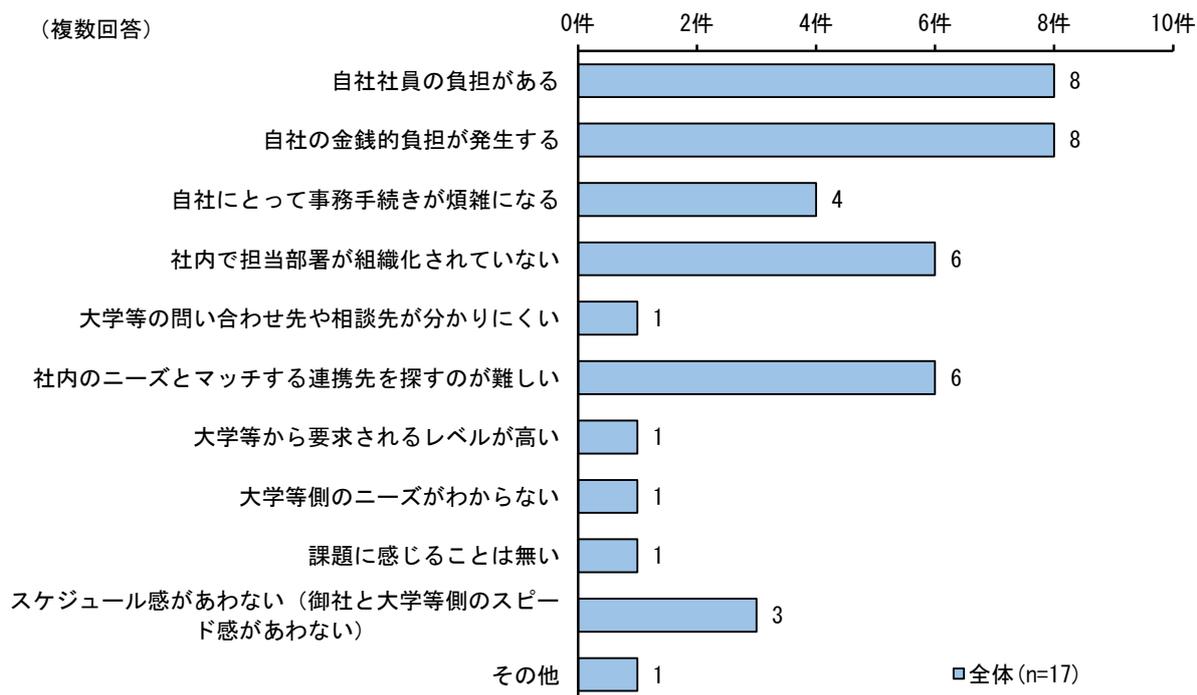
③産学連携のメリット（①で「取り組んだことがある」を選択した企業のみ回答）

「自社単独では実施困難な技術・製品・サービス開発ができた」が8件で最も多く、次いで「大学等との人脈ができた」と「社内の人材育成に効果があった」がそれぞれ7件となっています。



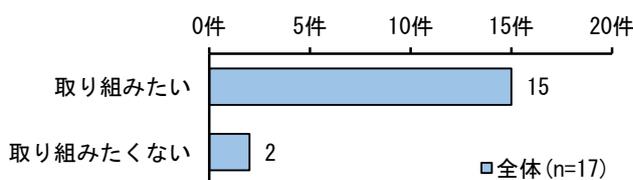
④産学連携の課題（①で「取り組んだことがある」を選択した企業のみ回答）

「自社社員の負担がある」と「自社の金銭的負担が発生する」がそれぞれ8件で最も多く、次いで「社内で担当部署が組織化されていない」と「社内のニーズとマッチする連携先を探すのが難しい」が6件となっています。



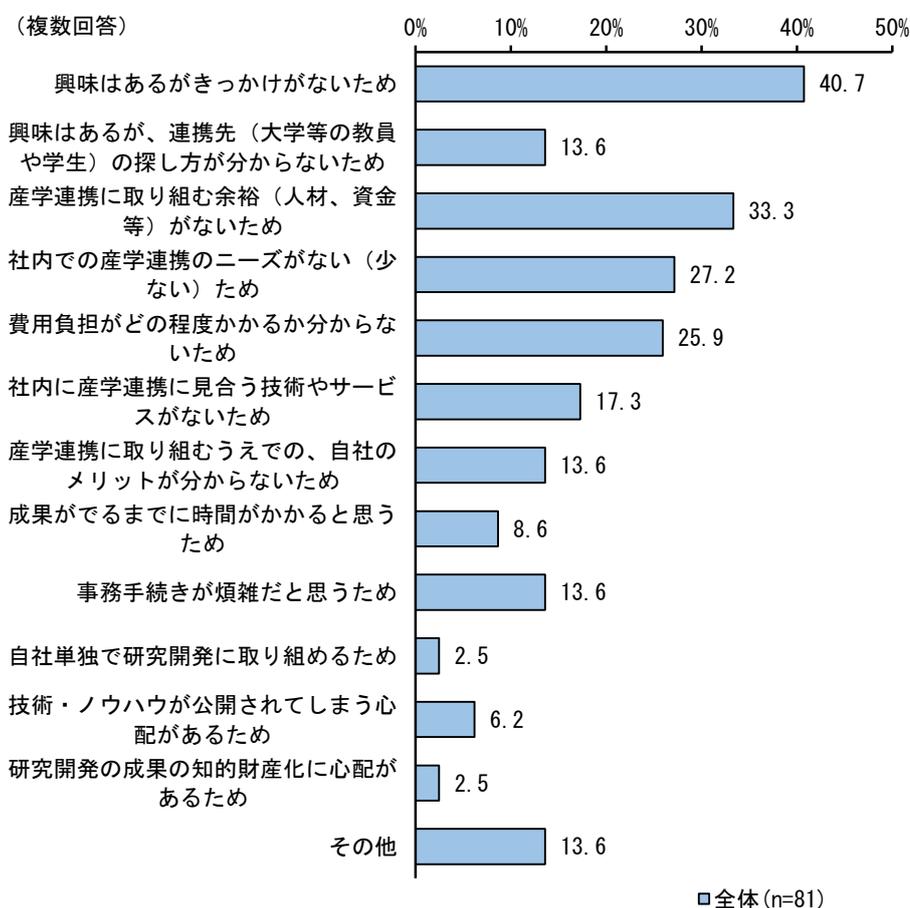
⑤今後の産学連携の取組み意向 (①で「取り組んだことがある」を選択した企業のみ回答)

「取り組みたい」が15件、「取り組みたくない」が2件となっています。



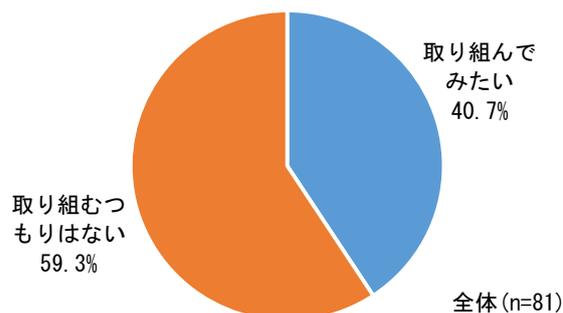
⑥産学連携を実施していない理由 (①で「ない」を選択した企業のみ回答)

「興味はあるがきっかけがないため」が40.7%で最も多く、次いで「産学連携に取り組む余裕(人材、資金等)がないため」が33.3%、「社内での産学連携のニーズがない(少ない)ため」が27.2%となっています。



⑦今後の産学連携の取組み意向（①で「ない」を選択した企業のみ回答）

「取り組んでみたい」が40.7%、「取り組むつもりはない」が59.3%となっています。



⑧今後、産学連携で取組みたいこと（⑤または⑦で「取り組みたい」を選択した企業のみ回答）

「共同研究・共同開発（大学等と事業者）」が60.4%で最も多く、次いで「委託研究（大学等の研究機関に研究を委託）、商品・サービスの開発」が37.5%、「技術コンサルティング、相談・情報提供、アドバイス、マーケティングの分析・手法」が35.4%となっています。

